

1994年4月3日、

飯塚の街は、

「めし塚の里」になつた！

推薦の二三

忍者がまちを変えている？

黒マント団 頭 北島 尚志

「忍者になって走った時

この街にちがう空気が流れ

手裏剣持つて追いかけた時

いつもどちらの風が吹く

街がぼくらの遊び場だ

「忍者まちを走る」 いかだ社 より

八年前、東京の小さな児童館が、商店街やアスファルトの街並で行なった「忍者ごっこ」は、様々なことを私たちに投げかけた。

忍者の魅力・子供達の叫び・遊び心の広がり・イメージの豊さ・そして「街」との出会い。もしかして、現実を切り開く力があるかもしれない。同時に、私達(おとな)自身の今を見つめる力にもなるんだということを教えてくれる。このちっぽけな東京の風は、全国各地に吹いたのだが、特に九州地方は、その風は嵐の様に(ちょっとオーバー?)吹き荒れ、「はてな」の公演(黒マント団)の公演そして、天神での忍者修行と、止どまるところを知らぬ勢いで吹き続けた。そして、ナ、ナント！その風は、さらに九州各地に広がり、子ども達、大人達



の心の奥に入つて行つたようだ。

今回の、飯塚での取り組みも、きっといつもどちらが風が吹いたのだろうと思う。それにしても、皆さんパワーは一体どこから来るのだろう。自分の中の遊び心やもう一つの「街」の扉を開けてしまったからだろうか。いずれにしても、子どもも大人も、この謎めいた怪しさや、マカ不思議な未知の世界に対する興奮が、このパワーの源の一つかもしれない。

そこで一つ警告。この麻薬のような興奮を得るために、「次はもっと・・・しよう」とか「この前とはちがう風に・・・」とか「この役は絶対あの人よ」などと気負つたり、決め付けたりしてしまうことが良くあるのである。こうなると、またちがう風が吹き、暗雲垂れ込めて来るので十分注意を！「新しいことを・・・」人がやつてないことを・・・を満足させるための遊び合いではないということである。

また、よく「忍者ごっこをすれば、遊び心が広がるんですか？」という質問を受けたりする。この遊びは、一回飲めば効く風邪薬ではない。多分、その逆で、何回も飲まなくては効き目が出てこないように思う。

現在を切り開く力は、大人と子どもがともに過ごすかけがえのない時間を積み重ね、「街」との関係を作り続けることの中できかえてこないように思う。

この偉大な、そして壮大な夢に向かつて歩き始めた皆さんを、遠い空から心より応援しています。

もくじ

企画書

その壱 影忍者団	1	めし塙の七人衆	2
の壱 影忍者団結成式	2	影忍者団結成式	3
式 参 修行方顕末記	3	修行方顕末記	6
四 伍 かわら版方	6	かわら版方	9
六 道具方	9	道具方	11
評定方と商店街	13		
その弐 囮・お頭・忍者団	15	忍者団結成	16
の壱 囮は仮装行列	16	囮は仮装行列	17
式 参 囮・お頭会議	17	囮・お頭会議	19
その参 あそべめし塙 忍者でござる！	21		
の壱 めし塙城風雲録	23		
式 参 尾行修行	25		
四 伍 どろんこ編	31		
六 七 忍者むすび	33		
八 九 わらしへ修行	35		
九 一 修行の山	41		
九 二 姫を助け出せ	47		
九 三 写真で見るめし塙の一日	50		
九 五 めし塙の里にあそんで	53		
その四 そこで子育てしたい街	57		



企画書 この企画は、参加者が忍者の扮装（といつても覆面だけの場合がほとんどです）をして、町の中で参加者以外の人とも係わりながら修業をしてゆくことを中心として構成されています。従って、参加者だけで遊んだり、一ヶ所に集まつて遊ぶような今までの祭りの企画とはかなり様相が違っています。ではなぜこの様々な遊びを企画したのかについて説明します。

1、なぜ忍者なのか
おもちゃが今ほど豊富でなかつた頃、子ども達は生活用品を工夫して遊んでいました。風呂敷はその中でもっとも良くながら修業をするのです。風呂敷をかぶるだけで子ども達は遊びやすくなります。今「シラけている」「子どもも楽しく遊べない」と言われている子ども達が風呂敷をかぶる忍者の格好でどれだけ自分ができるか・・・そんな挑戦でもあります。

2、なぜ町中で遊ぶのか
自分のすむ街が本当に自分にとつて心の故郷であるためには、ただ山や川があつたり、母校があつたりするだけでは充分ではありません。何よりも必要なのははそこで遊んだ体験です。今の子ども達はいまません。特に町中は、子どもになつてしまつた場所として捉えられます。そんな子ども達が街を自分の体験の中へ思い出などつながつた場所として捉えられ、愛着を持てるようになります。

3、なぜ修業をするのか
忍者は尾行修業になります。これは主に、五感・五体をきたえることと、人ととの係わりを自分から作ることを学ぶものです。例えば、影忍者の示す「葉」と同じものをを探す「ハッパ修業」では、子ども達は自然の中での発見をしていきます。「わらしへ長者」の昔話から生まれた「わらしへ修業」では、お店の人や街を行く人に自分から話しかけて自分の持っているものを何かと換えてくれるようになります。忍者の格好に頼むと、今この子供達は苦手なことをして行く中で（忍者の格好とこの醍醐味と楽しさを知り、人の暖かさへの信頼を深めています）。修業という設定も助けています。

4、この企画の特長
以上に述べてきたことで分かるように、この企画は、子ども達の心の発達において問題視されている「人間関係の希薄さ」や「シラケ」に対する挑戦であるとともに、子ども達にとって自分の体験の中で「生きた故郷」となるための試みでもあります。街の中心街をほとんど使い、多くの協力を得て、この企画を飯塙の街で成功させたいと思っています。

“集団で生きていくことができるか。

それとも孤立してしか生きられないか。”

子ども達は今、その瀬戸際に立たされている。

子ども達は、手と手をつなげる人間として生きていくことができるのか。何處からか、

“人間よりも機械が好き。だつて安心できるから。”

そんな声が聞こえてくる。

“そんなのいやだ！”

とめし塚の七人衆は立ち上がった。

“自分の力で遊びを作れ！

遊びはれるな！”

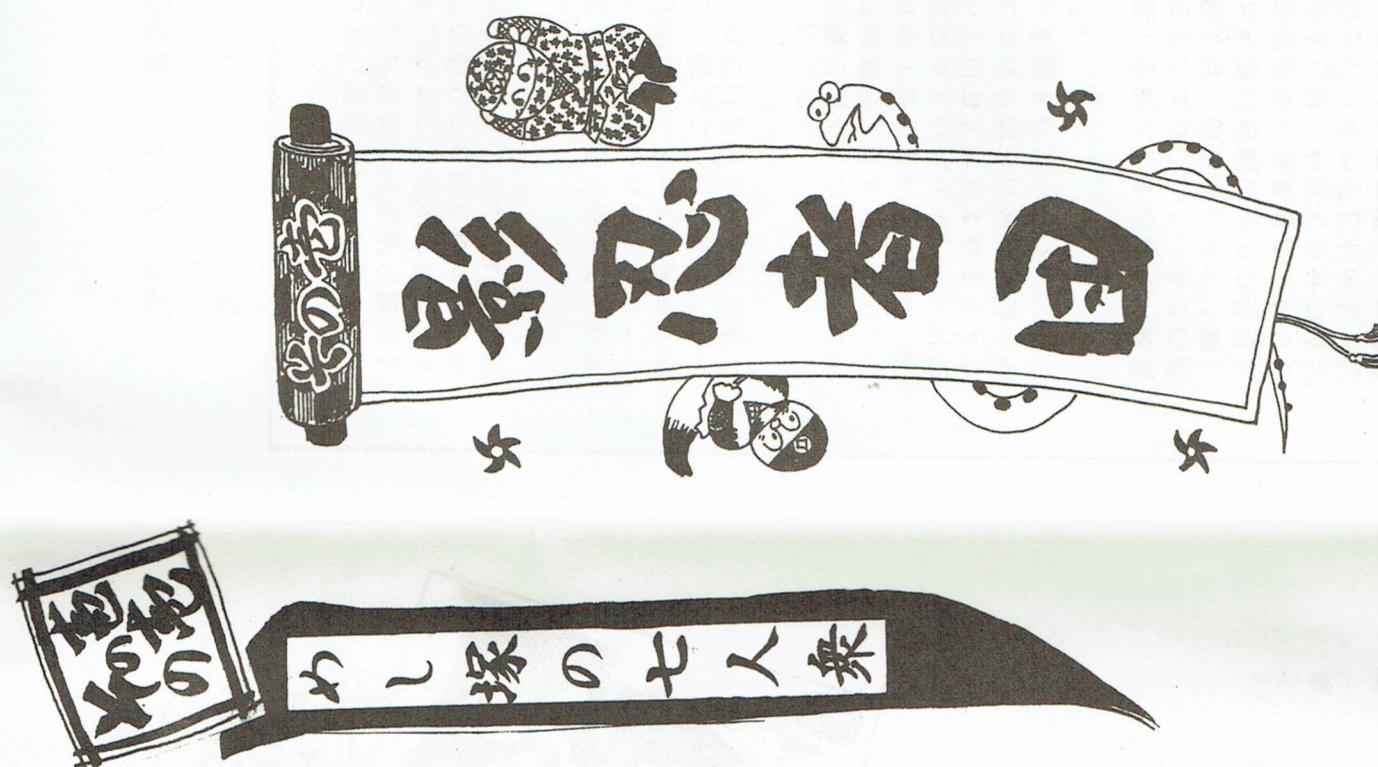
子ども達が自分の力で遊びを作り出してほしい。

自分から話し掛けて友達になる積極性を持つて欲しい。

ちょっとだけ自分の殻を破つてほしい。

七人衆の熱い思いは、燃え盛る火炎の玉となりめし塚の里に疾風を巻き起こした。

1



この忍者祭りの当初から、「実行委員の呼び名からその気になるような命名で」との想いがあり、誰がつけたか七人衆（なぜ7人かは分らない）。そして飯塚（いいづか）では面白くない、飯の字を「めし」と読んで「めし塚の七人衆」。それがこの忍者祭りの企画集団である。

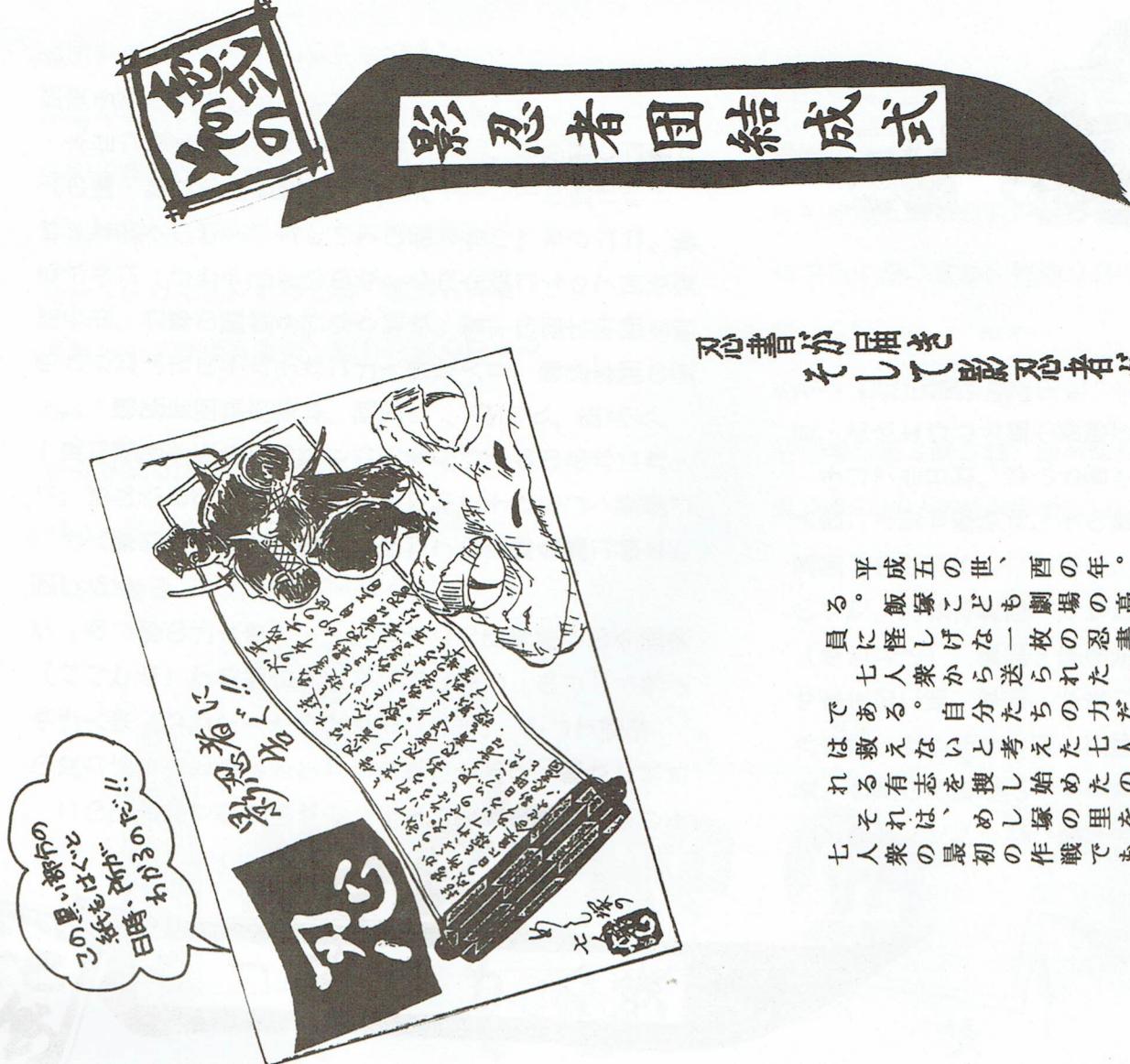
七人衆は影忍者団結成式へ向けての作戦会議に始まった。初めから仰々しく、衣装もつけてそれらしく登場し、一気に影忍者達をこの祭りに引き込むためのあれこれ。
影忍者団結成後は、評定方、修行方、道具方、かわらばん方のそれに七人衆が入り、影忍者間の役割分担、仕事の調整を行なうほか、青年の協力体制を作るために「なぜ今忍者なのか?」この企画によつて何が変わつて行くのか?についての話し合い、さらには、導入の劇・結びの劇を含む一日のストーリーの流れ作り。
本当に影忍者団のさらに裏幕として、日が経つに連れ、結束を強めて行つた(?)。

七人衆のメンバーは、青年3人、高校生2人、運営委員長、会員のお母さんとさまざまな立場であつた。それぞれ自分で通り名をつけ、役割を決めた。忍者学校長・鬼かます伝二郎、軍師・かまいたち、女装の密偵・傘鉢（かさりん）、筆師・南蛮ギセルのドリ、変装師・紅椿のサブ、忍者体操師・ジャコウ猫のアツコ、そして首領・風使いのかげろうである。通り名は修行方、かわらばん方にも受け継がれ、その気になるのに一役買つた。

そして当日は、なんと言つても導入の劇。根来衆の頭目・あかもむじと綾小路根石磨にさらわれた姫を助けるべく”七人衆 参上!”

2





怪しげな忍書に導かれて忍者屋敷「いおり」には、三十六名の子ども影忍者が集まり、それに青年・大人十七名、めし塚の七人衆の総勢七十名で影忍者団が結成された。

ここで、結成式の模様を紹介しよう。

一幕 密偵 傘鉢、福岡の忍者を探つてきた

その「街はななーR O ふしきーR O」のビデオ上映。

二幕 めし塚の七人衆登場

七人衆、忍者屋敷「いおり」の隠れ扉より登場。ここで七人衆の紹介が始まつた。

首領

密偵

軍師

校長

忍者体操師

筆師

変装の名人

風使いのかげろう

傘鉢

かまいたち

鬼かます伝二郎

ジャコウ猫のアッコ

南蛮ギセルのドリ

紅椿のサブ

平成五の世、酉の年。師走も半ばの事である。飯塚こども劇場の高学年会員の子ども全員に怪しげな一枚の忍書が届いた。

七人衆から送られた「影忍者呼び出し状」である。自分たちの力だけでは、めし塚の里は救えないと考えた七人衆は、力を貸してくれる有志を捜し始めたのである。

それは、めし塚の里を再び甦らせるための七人衆の最初の作戦でもあった。

三幕 テーマ(合言葉)決め

三つの案の中から、影忍者団が選ばれた。

『あそべめし塚
忍者でござる!』

に決定。

四幕 忍者体操

体操師 ジャコウ猫のアッコによる忍者体操が、影忍者たちに伝授された。



校長 鬼かます伝一郎から影忍者の心得が伝えられた。

影忍者心得

☆五体をきたえる

頭、首、胸、手、足をきたえ、体力をつけなければならぬ。

☆五感をきたえる

見る、聞く、臭う、触れる、味わう。体に持つたあらゆる感覚をときすまさねばならない。

☆自然と一体になる

草や木、自然と遊び、同化しなければならない。

そして、影忍者に一番必要な物。

それは……

勇気と度胸だ！

修行方、それは七人衆の一人鬼かます伝一郎の開いた忍者学校を卒業したエリートである。そして「あそべめし塚！忍者でござる！」以下「忍者まつり」とする。に参加した忍者達を容赦無く鍛え上げる修行の道の鬼軍曹もある。影忍者団結成の際、我めし塚に書をなす、「あやのこうじ根石磨」、配下の「赤まむし」とその一味「根来衆」を打ち倒す忍者軍団を育てよう！と自ら志願して修行方の門をたたいた影忍者の数は34名。影忍者団の中で最大の勢力であった。全員が熱き志に燃えていた。さて、ここまで表向きの話、つまり、全体のストーリーの中で修行方のしめる位置である。事の顛末を語るには裏の話を語らねばなるまい。

五幕を終え、そしていよいよ七人衆の本題に入った。七人衆の作戦。それは七十名の影忍者たちを四つの影忍者団に分割し、忍者まつり当日にそなえ、準備を進めていくというものであった。

☆修行方

忍者たちに仕掛ける修行を考える。

(企画係)



☆かわら版方

ニュースやポスター・チラシ制作。

(広報係)



☆道具方

巻物、班旗等作成。

(小道具制作係)



☆評定方

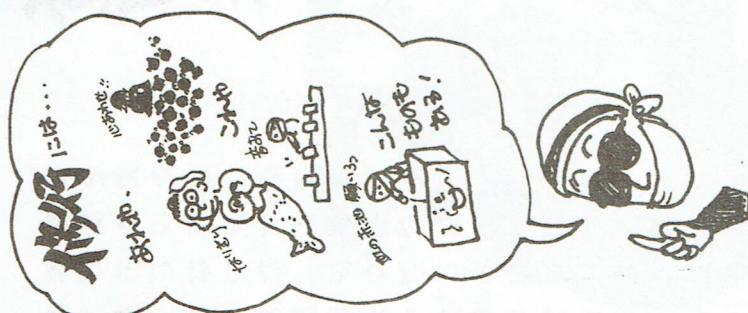
外まわり。

(交渉係)



以上、四つの団に分かれた影忍者たちは、三ヶ月の歳月を費やし、めし塚の里を再び廻らせる事になるのである。

そもそも影忍者団なるものは「忍者まつり」を作り上げるべく集まつたスタッフなのである。その中で修行方は忍者まつりの軸となる「修行」を考え、当日、修行處(忍者団が修行を受ける道場)をかまえるための準備をし実行する大変重大な役目を受け持つている。さらにこの修行方は影忍者団の中でも特に、高学年の子ども達を中心に構成されており、子ども達が自分達の手で作り上げて行く部所である。(これは修行方に限らず後に出てくるかわら版方においても同様の趣旨が生かされている。)このことが忍者まつり自体に一つの重要な方向性を持たせることとなる。それは、大人が御膳立てをして子どもを楽しませるというどこにでもありがちな活動にどまらず、大人と子どもが共に創造するという形態を目指すものになつたことである。



これだけの手順を踏んでやつと修行が完成するのである。子どもの発想を子ども達の力で立ち上げて行く、大人はあくまでも助力にすぎないとするならば、かえつて大変な労力が必要になつてくるのである。

また、修行方には大きな難問があつた。忍者まつりには4才から年の事を言えば怒りだす大人までが参加する。これらの参加者が楽しめるものを作り出さねばならない。自分達が楽ししければそれでよいといふわけには行かないのだ。各グループは担当高校生、青年の助言を受け修行のルールを単純化して行くことでこの難問をクリアして行つた。

このようにして、各グループ2~3の修行を完成させた。それに今までにボッになつた修行の中から人気第三位までをお父さん、青年忍者が受持ち、さらに七人衆が当日の進行上不可欠という理由で決めた必修修行である尾行修行とわらしへ修行を加え全部で17の修行処ができたのである。

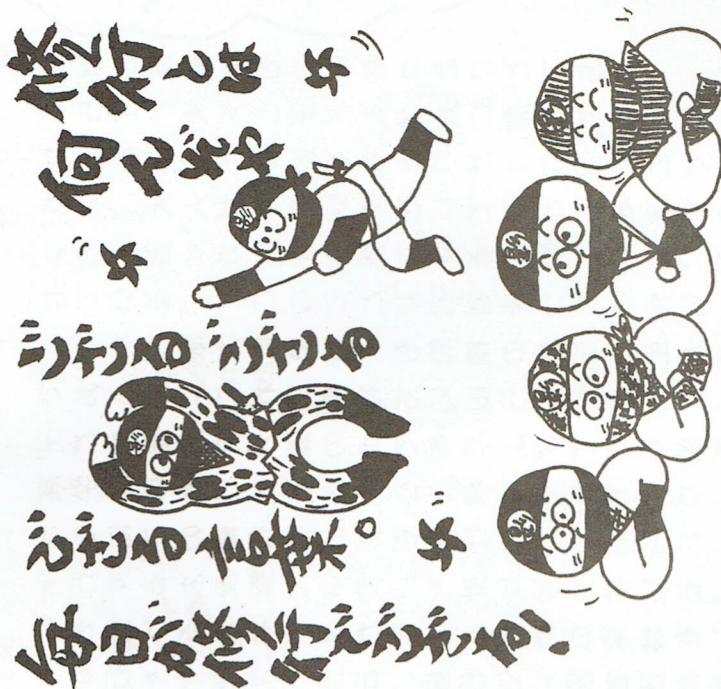
忍者まつり当日各修行処は1~3人で受け持つてるので押し寄せる忍者団へ少なくとも200人以上、相手に休む間もないほどで

修行方の持つ性格を語ったところで今度は実際の動きを語ることにしよう。

修行方34名の内分けは、大人6名、高校生6名、中学生3名、小学生19名となつてゐる。この幅広い年齢層をできるだけはらけさせるようにして5つのグループを構成した。そして、その結果それぞれのグループの担当として女子高校生くノ一隊へ高校生部の女の子及びそのサポートの青年忍者を配置することができた。これらの高校生、青年忍者達は子ども達のアイデアを引き出し、組み立てる手助けをする役割を担う。また、それぞれのグループの中には自分の意志で修行方に入つたお父さん忍者、お母さん忍者が入つており、陰ながら高校生、青年の力となつてくれた。それぞのグループ名を決め会合を重ねていつた。修行方を運営して行くにあたつて七人衆が立てた方向性は次ぎの通りである。

- ◇七人衆が考え出した修行を子ども達が体験し発想の基を育てる。
- ◇それぞれのグループは自分達の考え方だした修行をそれぞれ実践してみながらさらに考え方を広げて行く。

あつた。ルール説明から合格判定まで子ども達がおこなつた。少々ぎこちないござる言葉を話す少年少女忍者達ではあつたが、無事大役を果たしたのであつた。



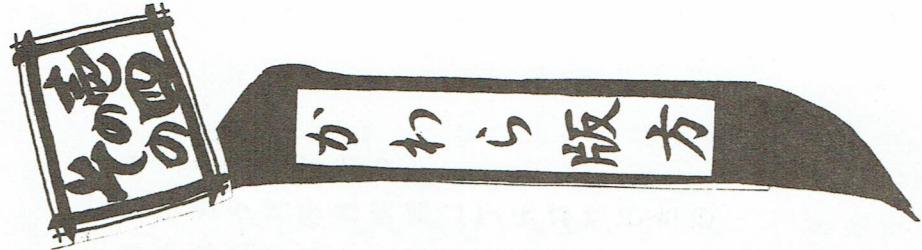
◇グループ同士で修行のかけ合いをしながら修行をかけさせる手応えをつかんで行く。

◇その結果を受けそれぞれの修行を修整して行く。

◇それぞれの修行のルールをしつかりと押さえ必要な物をそろえる。

◇最後に忍者団を相手にしたことを仮定してシミュレーションを行なう。





平成五年十一月十九日

かわら版方には、小学生十一人、中学生六人、大人三人、計二十人の影忍者が集まつた。影忍者団かわら版方には、当日までの間に大きな三つの修行をこなし、一人前の影忍者にならなければならぬといふ試練が待つていた。

その大きな三つの修行とは……

- 一、忍者かわら版作成修行
- 二、おふれ書き作成修行
- 三、新聞社突撃修行

新聞社に行き、忍者まつりの宣伝をする。

であつた。

この日から三ヶ月の月日を費やし、彼らはこの三つの修行をこなしていくことになる。

平成六年三月十九日

この日、かわら版方は三つの修行の中で最もきつい新聞社突撃、そしておふれ書きはりに取り組むことになる。

忍者の格好に身をつつみ、手にはめし塚の里にはるおふれ書きをかかえ、大人忍者の一人が巨大絵巻を肩にかつき、事務局をいざ！出発！新聞社四社をまわつた後、忍者の格好をしたままめし塚の里（飯塚の街）におふれ書きをはりにのり込んだ。

まわつた店は八十店近く、全部はり終わつたのはもう夕方。汗だくだく、体はくたくくた、でも何故か気分は爽快！みんなで乾杯したジュースは最高においしかつた。

平成六年三月二十七日

この日が最後の影忍者会議となる。

三つの大修行を終えたかわら版方は、まつり当日は忍者の中に入り込み、忍者たちと一緒に修行方の考えた修行をしていくことになる。

そして、最後に彼らに与えられた修行：それは、ききみみ頭巾修行！（まつりが終わつた後、自分の班の忍者に感想を聞く）であつた。

平成六年一月九日

この日は、かわら版方の合言葉“朝だ！元気だ！こはんがうまい！”を決め、修行方にもぐり込み取材をし、一緒に修行を考えた後、忍者かわら版の作成にとりかかる。

平成六年一月六日

七人衆による修行道場が開かれる。この日、かわら版方よりスケットとして三人の有志たちが修行方に移る事になる。

平成六年一月二十日

新聞社に持つていくための巨大おふれ絵巻（企画書）と、めし塚の里にはるおふれ書き（ポスター）を作成する。

巨大おふれ絵巻とは、結成式から当日までの影忍者団の動きをくわしく図解し、“あそべめし塚 忍者でござる！”の合言葉を一人ひとりが一字づつ分担して書いた後、作成者のサインとして手形を押し、巨大な絵巻にしたものである。これを持って新聞社に乗り込むことになる。



忍の里

道具方

道具方、その名の通り道具作り専門の技術部門です。忍者まつりで使用した小道具類すべてを担当しました。まさに裏方、縁の下の力持ちといった具合に忍者まつりには無くてはならぬ道具方がありました。

道具方は影忍者団唯一大人のみのグループ。七人衆の一人、紅椿のさぶのもと大人7名、青年2名、計9名と七人衆の応援を受け当日までに6回の会合をもちました。

主に活動は夜行なわれ、家事を早めに済ました夕方七時から九時を目途に約2時間、有効につかいました。仕事が持ち帰りの室内工業となることもありました。

材料に関してはさすが主婦、ローコストをモットーにどこからか古シーツを調達し、庭から竹を切り出し、はてさて円形カッターやミシンまで持ち込むはで、男いらずのたくましさでした。

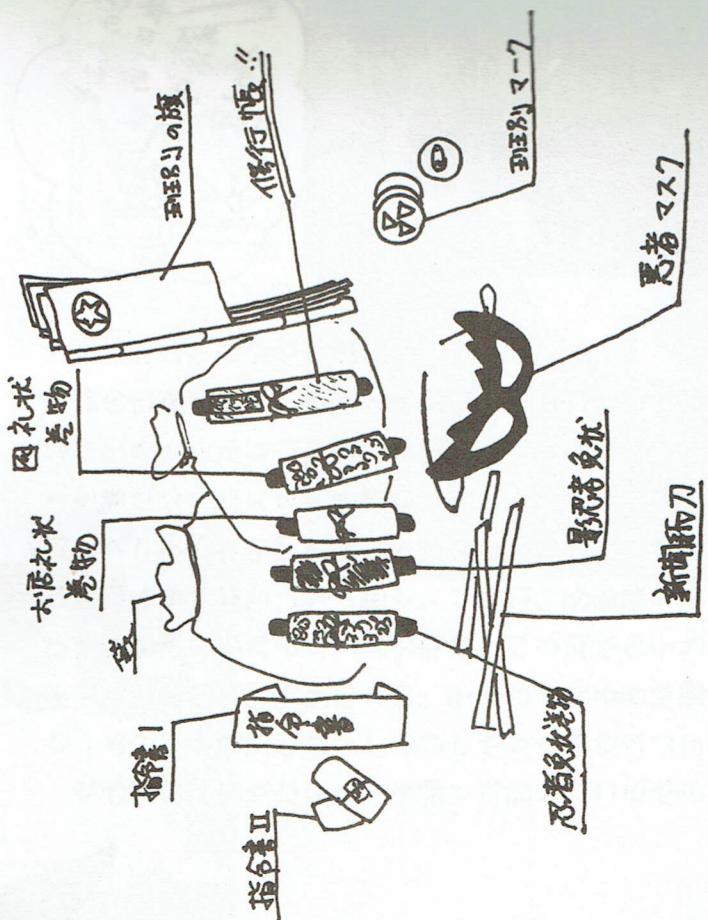
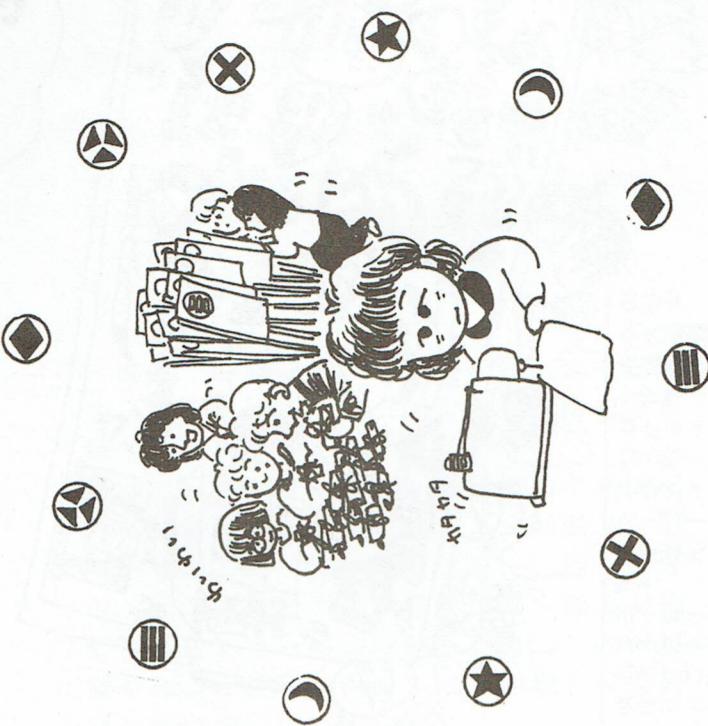
2時間という短い時間の中、しつかりティータイムもあり、毎回楽しい会合となりました。

それでは、道具方で作成した小道具一覧を御覧いただきましょう。

小道具一覧

☆忍者班別の旗	5色	6柄		3	3	0	本
☆忍者班別マーク	5色	6柄		3	0	0	個
☆忍者免状巻き物				3	0	0	本
☆修行帳				3	3	0	本
☆印礼状巻き物				3	3	0	本
☆お店札状巻き物				3	3	0	本
☆影忍者免状				3	3	4	本
☆指令書I				3	3	0	枚
☆指令書II				3	4	0	個
☆悪者マスク	※かわら版の手本あり			3	0	0	個
☆忍術秘術の素袋				3	0	個	
☆予備新聞紙刀						少々	

た。仕事の早さは天下逸品、率無く忍者まつりのすべての道具を作り上げていったのです。当日は、道具方のお母様も忍者になり数々の修行をこなし、りっぱな忍者団の一員になつたと聞いております。又、誰かれか誉められようが知る由も無く、自分達でねぎらいの宴を忘れずに執り行つたそつな…。





評定方と商店街

評定方は、後援依頼や商店との交渉などその他、参加費の決定、募集要項の配布などを受け持つ。運営委員がこれにあたり、軍師 かまいたち（運営委員長）がここに加わった。以前、商店街主催の宿場祭りに参加したときの担当者にこの祭りの主旨を話し、商店街の協力を得るための段取りを相談した。まず商店街連合会の事務所を通じて連合会の会議でこの祭りへの協力を話し合つていただき、次に各商店街の会長さんに会いに行って改めて主旨を説明すると共に、団が逃げ込む店として協力していただける商店の紹介をお願いした。

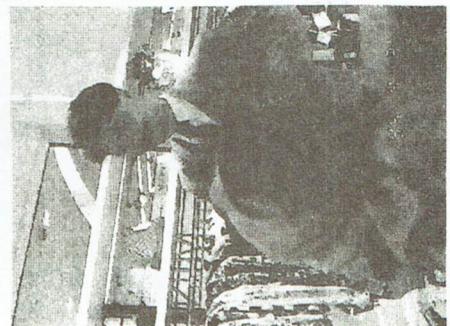
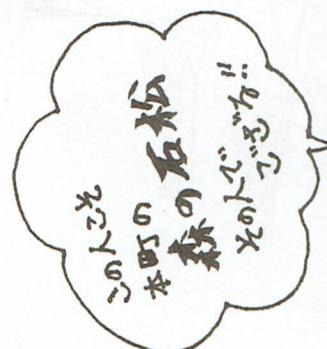
中には協力として忍者達へのプレゼント（秘術のもどをくださつた商店街もあつて、話に行く度に商店街の方々がこの祭りを楽しみにしてくださっている気持ちが分かり、張り合いを感じることが多かつた。特に会長さん達は昔自分達も商店街を遊び場に育つた人達のせいか、私たちのやろうとしていることをすぐ理解してくれ、ややこしい説明が要らなかつたことが印象に残つている。

今回の取組を通じて、商店街が身近になつたことは祭りの翌日「感謝状」を持参したときに強く感じた。私たちが「こんなにちは」と声をかけたときにはけんそくに「何か？」と聞くお店の人々が、「飯塚こども劇場ですけど・・・」と言つた途端にニッコリして「まあ！きのうはどうも！ははは・・・」となるのである。このことは、2週間後の「飯塚どんたく」のパレードに出たときも見られた。あちこちの商店の人達が、パレードの列の中に飯塚子ども劇場を見つけると手を振り、声をかけてくれたり、果ては投げキッスなど送つてくれたのである！

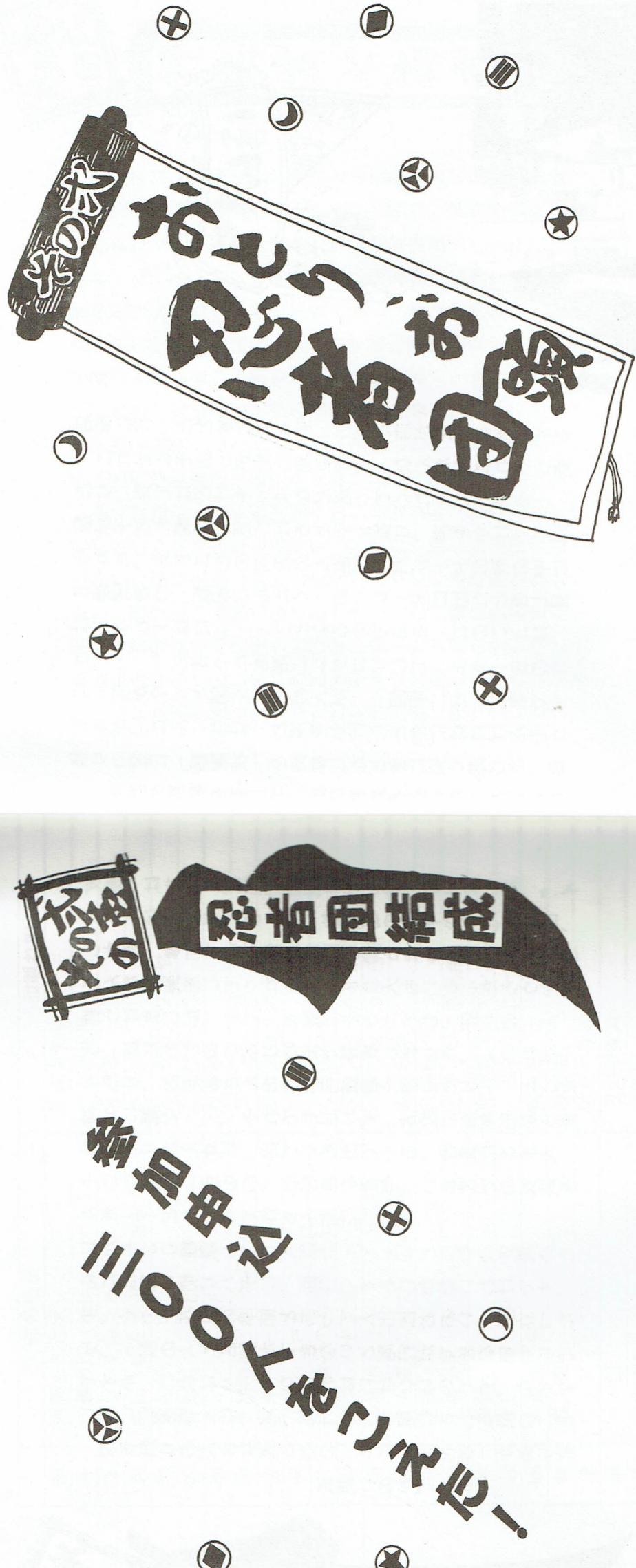
これでこそおらが街の商店街・・なんだかこれから商店街に行つたときによる店、のぞく店が変わらる氣がする。

かわらばん方がポスターを貼りに行つたところからもう「あら！今日だつた？」としつかり心待ちにしている様子。お店の人、行商の人、子どもを見る目が暖かい。おかあさん連れで街を歩いているほかの子ども達に向ける目とはぜんぜん違う。いわば、忍者祭りと一緒につくつて行く仲間意識のようなものさえ感じたのは考えすぎかな？ポスターを頼むときの子ども達の物おじしないアタックぶりにはらはらしたのは大人ばかりで、商店街の方達は、思ったほどお店にじやまになるとも迷惑ともおつしやらなかつた。

13



14



忍者 言語道場に告ぐ

集合日時 今月3日(日) 雨天時4月10日(日)

集合場所 勝利公園 水上ステージ前
階段席

11時開始

もっこくるもの

その1. ふろしき一枚 ◇

その2. 新聞紙(1枚分)でつくった刀

その3. 忍者にきり飯 1コ

貴殿の申し込みには受けられん。

やがての 忍者団の色は

やがての 忍者団の印は

4月3日 午前11時開始時には、必ず、その色、印の旗の前に待機している。

今日は、左側の旗を持ち、算6だ。

いっしょにおいかないよ。

めし塚セ人娘 1994年3月12日発行

連絡先/ 食塚市篠田西三丁目16-1
食塚 こじも商店 ☎ 0968-23-7319

忍者祭りの参加者を300人と予想してあらゆる準備が進められていた。しかし、参加費のいる自主活動にはたして、会員の1/3の参加があるだろうか。締切の2日前には100人程度だった申し込みが、何と締切時、309人！ やれる！ この盛り上がりは、半端じやない！ 鮎忍者達はいよいよ300人の忍者団に向けて、最後の仕上げに入った。

300人の忍者達は、5色×6マーク=30忍者團に分けられ、それぞれのメンバーの中からお頭が選ばれ、電話でお頭任命が伝えられた。（思ったより断わる人が少なかつたのは嬉しかつた）

実はこの団分けに、評定方と七人衆が何と4時間以上かかつたのである。低学年は家族と一緒に、高学年は家族とわけ、家族同士は知らない同士に・・・と配慮して分けていった。安全性と自分のからを破る冒険心とのかねあいが難しい。

忍者団としての参加以外に、動写方（ビデオ係）、似絵方（カメラ係）、囃、劇の役者などを入れて何と総勢400人を超える参加となつた。



風使いのかげろう

忍者祭りの大きな楽しみの一つに「凹忍者」がありました。凹忍者とは、尾行修行の時の尾行される役のことですが、これはハデでなければいけないのです。なぜなら、一般の人と区別ができないと尾行ができないからです。その上花見の季節とあって人出はおおい。目立つためには思い切りハデに、面白くするしかないわけです。しかも30種類=30人以上・・・「どうやつて集めるんだ? ! どうやつて作るんだ! ?」

そこは仮装(色もの)の好きな青年。今までの衣装をひっくりかえせば、出てくる出てくる。會長にこま犬・神父に魔女・・・それでも足りず、高校の演劇部から借りたり、おかあさんの昔の弓道着を借りたり・・・とうとう「はにわ」のかぶり物まで登場しました。(これが一番つけました)さて、衣装はそろつても、肝心の「人」そんな仮装をしてくれる人が30人もいるんだろうか? しかも、参加する子供達が顔を知らない人がいい。友達にあれば凹に見える・・・他劇場の青年から地元劇団、友達、はたまた家族、両親までも巻きこみました。"イ

ベントを手伝つて"の一言でOKだった人もいれば、「子ども劇場とは? なぜ忍者祭りをするのか?」などから話さないといけない人もいて大変でした。でも、大半は「仮装ができるよ」とか「新しい出会いがあるかも。」などとだまして(!?)連れて来ただようでした。

私はといえば、以前のイベントで占い師役をやつてもらった母には「この前の評判が良かったのでまたやつて」と頼み、父にいたっては、酔った隣に「職場でトトロと呼ばれているなら今度トトロの格好して歩いてよ」と半ば強引にうなづかせたのでした。家族全員で同じ忍者祭りに参加したおかげで、食卓の話題がふえ、家族の絆が強くなつた。・かな・?

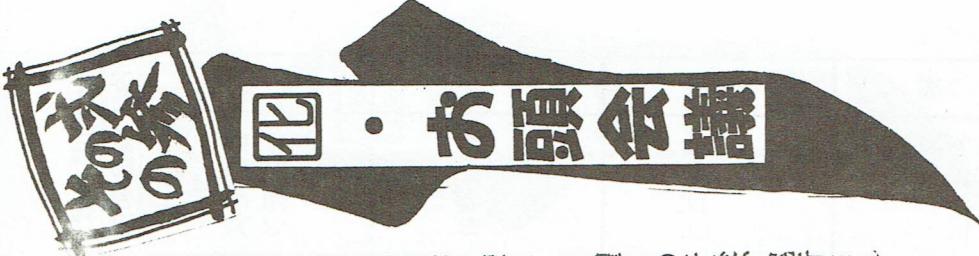
子ども劇場の活動に始めて参加した凹は、初めは抵抗があつたようだが、やつてみると今では味をしめ、次を期待して待つているそうです。



凹と忍者家一覧

色	集合場所	マーク	凹の仮装	忍者家
桃	西郷さんと犬	◎	高取金物店	
	白鳥の湖 (バレリーナー)	◎	ベル理容室	
	ギターを抱えたウエスタン	◎	キムラ	
	ベレー帽をかぶつた画家	◎	たまおき	
青	鬼の子	◎	インテリアクラヤ	
	オルゴールのピエロ	◎	江崎はきもの店	
	ティンカーベル	◎	クラヤ	
	麦わら帽子のおばさん	◎	フティク・アン	
赤	スキーヤー	◎	ジャスコ(ガブ)	
	ハイカラさん	◎	ますや	
	弓道着姿のおねえさん	◎	くつのクラウン	
	凛々しい若武者	◎	ジャスコ(4F 家電売り場)	
緑	神社のこま犬	◎	ヘアファション日新	
	三人連れのゆかたの女たち	◎	みどりや	
	埴輪	◎	八番館	
	人形をもつた占い師	◎	工マックス事務所	
文化センター	酋長	◎	飯塚観光ホテル	
	サリ 服の怪しい女	◎	メガネのサトー	
	剣道着の男	◎	富久荘	
	鳥人間	◎	みのや	
紫	ウエディングドレス	◎	はたや楽器店	
	トトロ	◎	ヨカヤ家具	
	神父さん	◎	井筒屋	
	サマーバケーション	◎	中茶屋コミュニティーセンター	
明正寺	山笠ハッピ	◎	久留米屋	
	カキ氷屋さん	◎	大丸	
	白雪姫の老女	◎	パール	
	ブリキのピエロのハンス	◎	フジイ進物店	
	デプリン	◎	あかさかや	
	ドラエモン	◎	元野木書店	

「凹」の字の右側に、忍者たちが忍者祭りで遊んでいた様子が描かれています。背景には「忍者家」という文字があります。



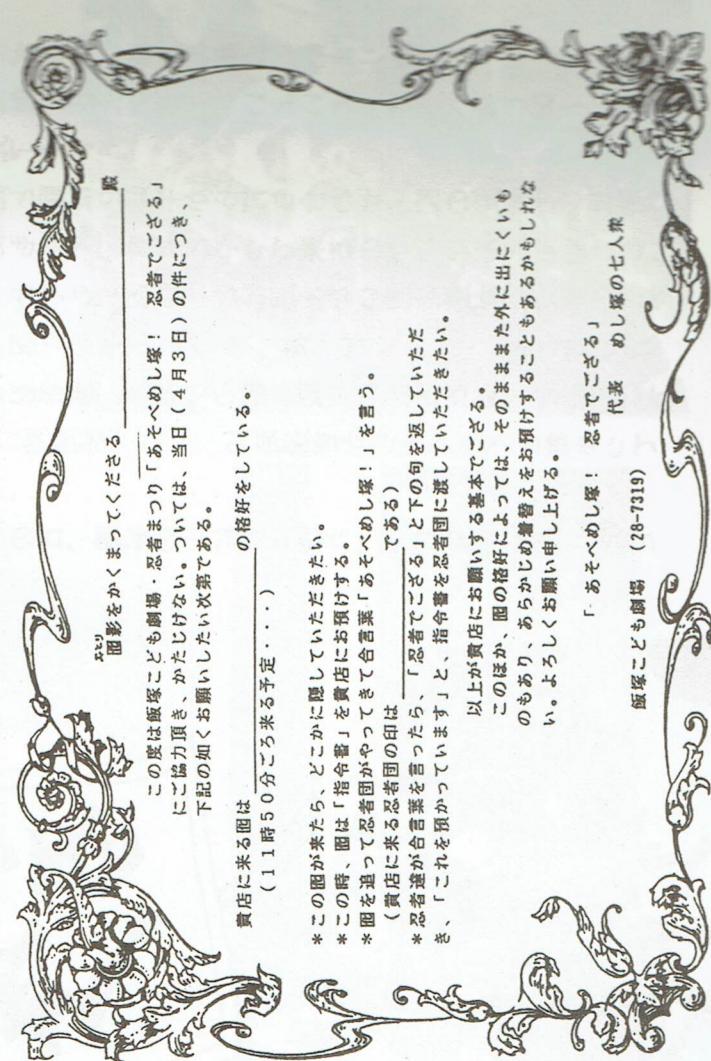
忍者祭りを1週間後に控えた日曜日の午後、尾行される団と尾行する忍者団のお頭との顔合わせ「団・お頭会議」が開かれました。尾行の仕方、され方の解説、当日の流れの説明とそれぞれの忍者団の忍者印の確認などの後、「ご対面!」・・集団見合いさながらに、和気あいあいのなかで行なわれ、団の衣装についてのイメージを賑らませていました。

七人衆の正装（忍者姿）を見たお頭達は、負けてなるものかと衣装作りに懲つたらしく、当日はバツチリ決まつた忍者が多くいました。

顔合わせの後「市中引き回し」（団隠れ家→団が逃げ込む店に挨拶に行き、打ち合わせ）でした。忍者団の色別にグループになり、その色を代表する色忍者（七人衆）と行き、お店の人と顔合わせをし、手紙（「団影をかくまつてくださるお店の方へ」）を渡して当日のお願いをしました。お店によつては、わざわざ隠れ場所や裏道を「ここからだと見つかりませんよ」と教えてくださつたり、商店街の方々も祭りを楽しみにしてくださつていることが分かり、1週間後の気持ちがますます盛り上がりつてきました。



団・お頭
ごめんなさい



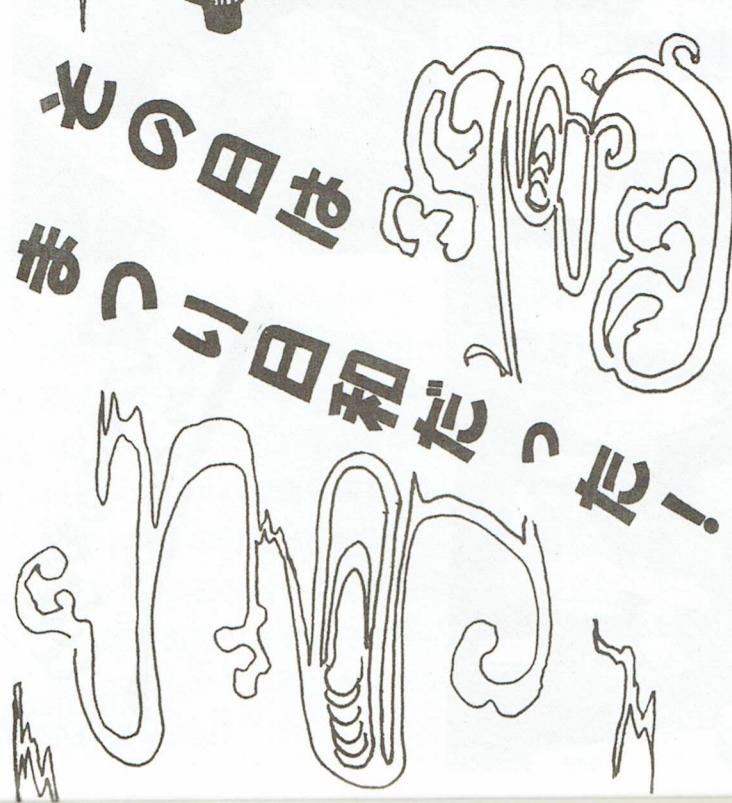
着々と打ち合せが進んで最後のお店はデパートの中でした。ところがその店長さんに話が行つていなかつたのです。「デパートの店長さんには話してあるのですが」と言つても、「うちは聞いてませんので、できません」・・結局デパートに行つてくれた評定方と連絡を取り、話をしてあつた人に直接会つて改めてその店に話をつけてもらつて一件落着でした。この日の打ち合せがなかつたらどうなつていただろうと思つと、評定方の下準備とこの「団・お頭 市中引き回し」の重要さが身にしみた一日でした。

帰り道、街から公園までのコースを下見して「当日頑張りましょう!」と気合を入れて解散しました。

当日のスケジュール

時	忍者	影忍者
9:30		集合(勝盛公園)
11:00	集合(グループ別に旗の前) 10名×30グループ 団影を尾行して街の中へ。	下見・仕掛け準備。 導入の劇。
11:30 50	店に消える。(30店) 団影→店の人から指令書を見つける。 指定の場所で「色忍者」を見つける。 (星食=色忍者と共に忍者握り飯) 色忍者から修行帳をもらいう。	団影は勝盛公園に戻る。 修行の仕掛けをして忍者を待つ。
12:00	色忍者と共に修行する。 (星食=色忍者) 影忍者を探し、修行する。 (指定された数以上の修行をする。)	影忍者グループ毎に全部で20通りの修行。 チャンバラごっこ
12:30 13:00 14:00 15	影忍者との戦い。 影忍者登場(修行帳を集め、免許皆伝の書を授ける。)	影忍者=修業修業帳を街まで引き出す係(目立つ粉飾)
14:30	大頭退場。「さらば！」の旗が見える。	色忍者=次の修業へと導く忍者。(グループの色に合わせた装束)

*用語解説
 忍者=当日の参加者(約300名)(忍者の扮装)
 影忍者=実行委員として、企画に参加している小4以上のお子さんと大人。
 (約70名)
 団影=尾行修業の団として忍者グループを街まで引き出す係(目立つ粉飾)
 色忍者=次の修業へと導く忍者。(グループの色に合わせた装束)

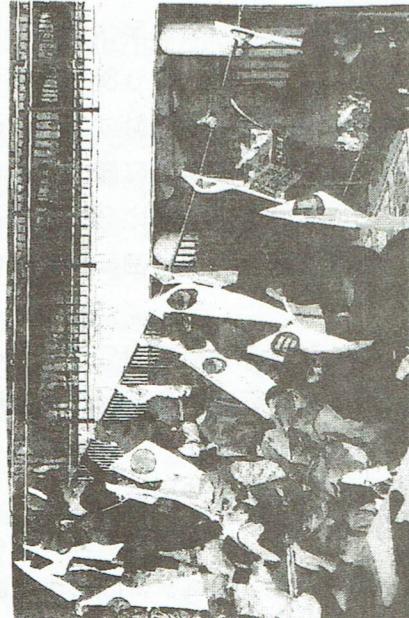
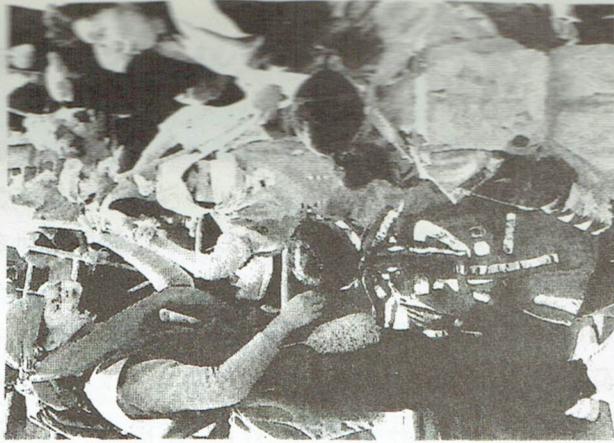


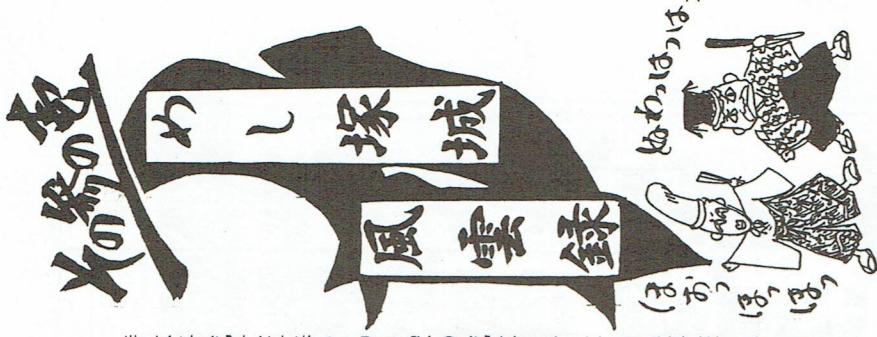
その日、勝盛の山は日本晴れ、めし塚は祭り日和だった。

「11時開始」に、10時過ぎからそくそくと集まって来る忍者達。金キラの縫い取りのある衣装、背中にはでな「忍」の字!赤、青、黄、ピンク・・・色とりどりの、とても「忍び」とは思えない忍者達が花見客の目を氣にもせず、堂々とやって来るのが、なんとも頼もしい。

団と頭は9時半から打ち合わせ。団の変装も11時には完了!

太鼓と花火の音...いよいよ「あそべめし塚」忍者でござる!導入の劇の、始まり始まり・・・





時は平成六年春、めし塚の城はただならぬ事態にさわめき立つていた。めし塚城主めし塚守安保の姫君、千姫が何者かによつてかどわかされたのである。狼狽する安保、必死になだめようとする家臣たち。しかし、氣の静まる気配すらなかつた。それもそのはず、安保は千姫を目に入れても痛くないほどに溺愛しており、実際に入れてみたことがあつたが痛くなかった。しかし、このめし塚の城に潜入し警護の目をかすめて姫を連れ去るとはただ者のしわざではない。安保は家臣をなじるように叫んだ。

「何者の仕業かわからんのか。」

「ははつ、それがしにはわかつております。」

家臣の一人が言つた。

「賊は確かな証拠を残しております。」

「おお、よくぞ見つけたり。」

安保はその家臣をたのもしく思つた。

「賊はこのような手紙を残しております。」

その手紙にはこう書かれてあつた。

「お待ち下さい殿。」

家臣の一人がそれをいさめた。

「今は太平の世、戦なんぞすれば御身は切腹、お家はお取り潰しそぞ。それに姫が質に取られてあることをお忘れなく。未だ姫の所在すらつかめておらぬ今、下手に事を興すのはどうかと……。」

まさにその通りであつた。

「何か良い策はないのか。」

安保は家臣の一人一人を問い合わせるようにせまつた。しかし、満座の家臣達は水を打つたように静まりかえつてゐた。

「恐れながら……。」

一人の若き家臣が前に進み出た。

「一つだけ策がござります。」

「うむ、申してみよ。」

安保の目が光り、強張った顔が少々緩んだ。

「敵が忍の者を使うなら我が方も忍を使つしかありません。我がめし塚には『七人衆』といつ切れがござります。」

実はこの男こそ人呼んでめし塚の七人衆の頭領「風つかいのかげろう」であつたが、誰も知らなかつた。

「うむ、その手があつたか。七人衆と言えば我がめし塚最強の武士。さつそく七人衆を呼べ。」

『めし塚の馬鹿者ども、姫はあずかつた。返して欲しいはつくで取り返してみよ。』

根来衆の頭目 赤まむし』

こんなことなら誰にだつて賊の見当はつく。安保はこの家臣に切りつけてやりたい思いにかられたが思い止まつた。

しかし、赤まむしと言えば思いあたる節がある。赤まむしを配下に持つものは京の公家、大納言あやのこうじ根石磨に他ならない。根石磨は大納言の權威を傘に着、また根来衆の力をちらつかせながら大名家から多額の金品をたかり歩いている男であつた。

あれは昨年の事になる去る高貴な茶人の茶会に招かれた際、安保は千姫を伴い出席した。その席に根石磨も同席していた。会も引け際、根石磨は安保に近寄り、千姫を気にいつたので娘に欲しい旨を伝えた。その場は安保も「御冗談を。」と軽く流して置いたが、根石磨の目に並々ならぬ様子を感じていた。

その後も根石磨から誘いが合つたが、色々と理由をつけて断わり続けていたのであつた。

「事は急を要す。兵を集めよ。戦じや、戦の支度をせい。」

安保は半ば心配したように叫んだ。

こうしてめし塚の七人衆に呼び出しがかかつた。七人衆は普段は人目をはばかり城下で町人に紛れひそりと暮らしているのであるが、一大事あらばいつでも城主のもとに参上するのであつた。城下のはずれの地蔵堂に赤い旗。それが七人衆呼び出しの合図であつた。一度この地蔵堂に旅の老人が洗つた赤フンを干したことがあり、七人衆が参上したことがあつたがこれは余談である。

七人衆は姫を救い出すべく策を練つた。七人衆の頭脳、軍師がまいたちは次ぎのような戦略を立てた。

●まず、心ある協力者に櫻を飛ばし兵力を集める。これを忍者団と呼ぶ。

●次ぎにこの忍者団を忍者学校校長である鬼かます伝一郎の指揮のもと忍者学校の子弟で構成される修行人に送り込み短期間で忍の技を身につけさせる。

●そして赤まむし率いる根来衆を電光石火の勢いで打ち倒し返す刀で根石磨をも退治する。

七人衆はこの戦略のもと一丸となつて動きだした。

いよいよ忍者団集結の日飛激に応じて集いし兵力は四百人以上、その半数以上は、子ども達であつた。

忍者団は、修行のための合言葉「あそべめし塚 忍者でござる」を覚え、すぐさま尾行修行にとりかかり、里の中に散つていつた。



忍の身の上 尾行

忍者達にさつそく人相書きが配られた。そこには、いとも奇妙な奴らが描かれている。
「ハニワ」「こま犬」「犬を連れた西郷さん」「パレリーナ」「トトロ」・
そんな奴を見つけだしてその後を追えと言うのだ。忍者達は、半信半疑で出発した。
一方、四郎は準備万端整って、勝盛公園の駐車場付近で忍者団を待っていた。忍者達がやつて来る。あまりの四の姿に、笑い転げる忍者もいる。
自分を追つ忍者団の旗を確認したら、四は出発。道々、少しより道などをしながら尾行され、四隠れ家（商店街の中の頼んである店）まで歩く。店の人に指令書を渡して姿を隠すまでが四の役割である。忍者達は街の人達の目など気にもとめず、物陰に隠れながら尾行修行を行なつた。

つて、ドックネーに、たのむつた女の人です。
てもうきものを、ねがドックネー
もつかつた。つて、ついて、ついて、
ふじ田 ゆう子

紫 ◎ 行武

かき氷屋を尾行する修行では、子どもたちが一番に『あついた!』と指差したのは予想通り園内で商売をしている本物のかき氷屋さん。「あそべめし塚」おじさん「……？」もう一度「あそべめし塚」目をまん丸くしたおじさんを後に、本物の四を追つて町へ……。尾行なのに追い越してみたりもしたけれど、又太丸に入つてトイしに隠れるはずだったかき氷屋さん、あまり子どもたちに近づかれすぎて最後は逃げるよう階段を下りていき、頭は子どもたちを引き留めるに必死だった。修行が終わつた子どもたち「あのかき氷屋さん、どこに行つたとやろう？」と結果を知りたがつていた。本当にご苦労さまでした。

ハロを気にせず、ふわふわして
顔をかくし、世々木戸町を歩
けたので最高——だった。



青 ◎ 岸

母親2人、新1年生を含む小学生3人と幼児2人の計7人で団を結成したのでござる。我ら尾行する四は、「麦わら帽子のおばさん」であり、小太りでスカ



白鳥の湖（パレリーナ） 堀川ババ 時間がたりなかつた。11時までにコスモスコモン近くまで行くのは、ただ歩くだけ。もつと時間があればいろいろと楽しむことがやりたかった。BGMの付き人でも連れて踊ろうかとも思つたけど……。とにかく、もう恐いものは何もありません。来年は何をしようかと、今から思案中。



「奥のおばさんの手配書を受け取り、いざ出発——しかし、実際には植物に変わった帽子姿であり半信半疑のまま尾行していくと、ナント一勝盛公園の入り口に手配書そつくりのスカートに麦わら帽子姿のおばさん発見！「あの人やろうか？」」「ウーン でもあの人タタの見物客のごたあーバイ」としばしやりとりをするうち四はどんどん進んで行く。

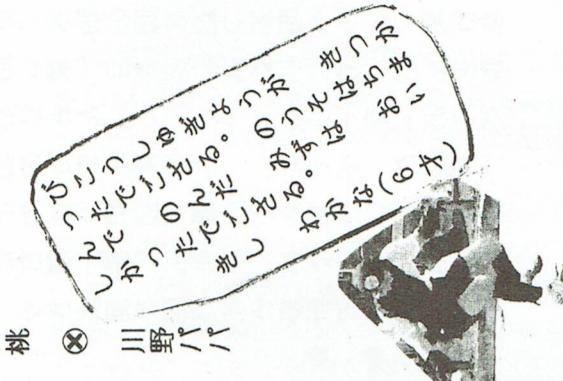
やつぱりアレだ！と腰をかがめて尾行を続ける。幼児2人、何が何だか分からずただ付いて来る。母親2人、ペラペラしゃべつていると子どもに「しつ！」とにらまれ心も体もすつきり忍者。

途中でおばさん、ウインドショッピングじやらをする度に一応物陰に隠れる我ら。あつ曲がつた一逃げ込んだその先是、永楽通りのフティック・アン。声高々に「あそべめし塚！」に「忍者ござる。」の大きな合言葉をもらい、次の指令書を受け取つたのでござる。

めでたしめでたし——しかし、その後もナゼか腰をかがめて歩く癖が抜けず、妙に腰が痛い一日であつた。

赤 ○ 藤田

私たちの忍者団は、お父さん1人、男子2人、女の子2人そして私の6人で出来ました。その中の男の子2人がすつかり忍者になりきつてくれて、私の持っている旗が目立ちすぎるとか、もっと隠れて、とか言われながらみんなも乗つてくれました。子どもたちはドキドキ、お父さんはハラハラの楽しい修行でした。



桃 ⊗ 川野パパ

電柱、壁、車、他の人たち、犬……とにかくどこでも隠れました。我が班は、「鬼の子」を追つていたが途中、人相書を出して道行く人の顔の横でわざと比べて「違うなあ」と次へ行つたが、楽しきつた。



桃 ● 伊東

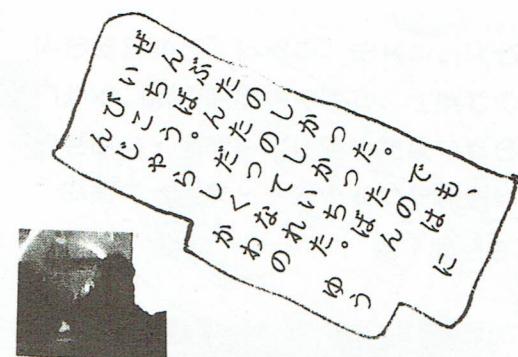
団歩くのがはやくて追つかけるのが必死でした。コスモスモンは遠くて4才の子は運いけど、大きい子は団を真剣に追つかけて走つてゆくので、団バラバラになるのをまとめたら団が見えなくなってしまうし…。西郷さんゆづくり行くでござる」とか皆で言つて、子どもがすつかりその気になつて忍者にじばを使って追つかけたので面白かった。

緑 ⊗ 大庭

4年の男の子は、尾行といつもの何となくわかつたのか壁伝いに隠れたりしてでしたが、1年の女の子は、つねに真後ろにぴったりとくつづいていた。

紫 ○ 茅野

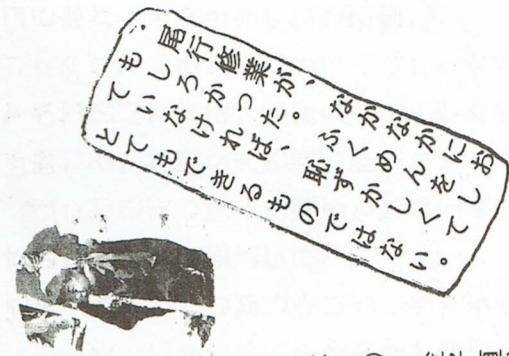
忍者団がドラエモンを尾行している時別のねはあちゃんが孫が忍者のかっこうをしたいと言つたので、手持ちのフロッキで忍者のかっこうをさせ、一緒にさせてくれたさいと言われ、途中まで一緒に尾行しました。



赤 ○ 大谷

団の「こま犬」が何かを知らない子がいて、説明しながら尾行開始。子どもアラス大人もけつこうその気になつて「あッ、こま犬が振り向いた。」と大騒ぎしながらも、一応隠れたつもりで尾行は続いた。途中信号を渡つてしまつたこま犬を「尾行しなくちゃいけないけど、信号は赤に替わりそうだしどうだ…」と本気であせつている子ども忍者たちが、かわいかつたヨッ。でも、ちゃんと信号を守つて尾行は続いたのだった。しかし、団の隠れた店で指令書をもらい読んだ後に、「何でこま犬、連れていかんと!」と、不満の声続出……??

「ピエロ」を追いかかけました。商店街に入るまでは、団も忍者もウジヤウジヤで見失いそうで必死。商店街では、壁伝い、商品の陰伝いに忍びの術を発揮して尾行。につこり振り向かれてあわててアティックの洋服の蔭などに隠れる。スリルに溢れていた。私たちの全然知らない路地なども通つてくださり、とても上手な団さんでした。とても楽しめました。



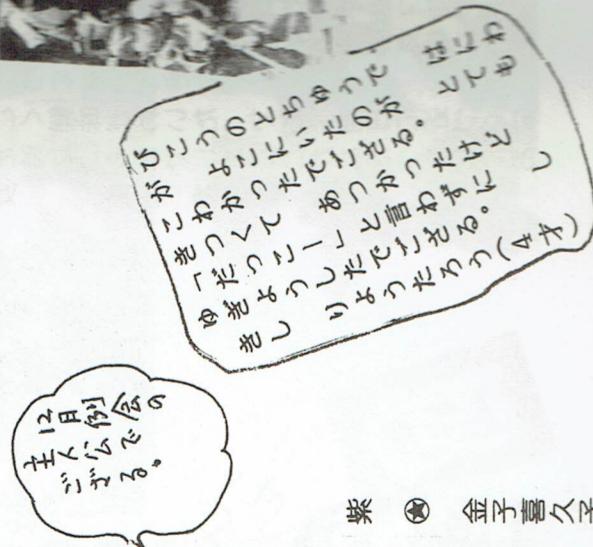
緑 ○ 金子直哉

サマー・バケーションの人で、みんな最初は「面白くない」。これからなんがあるん。」と言つていたけど、だんだん慣れてきて「にげるばい。はよ追いかけな」とか言つてみんな楽しそうだった。



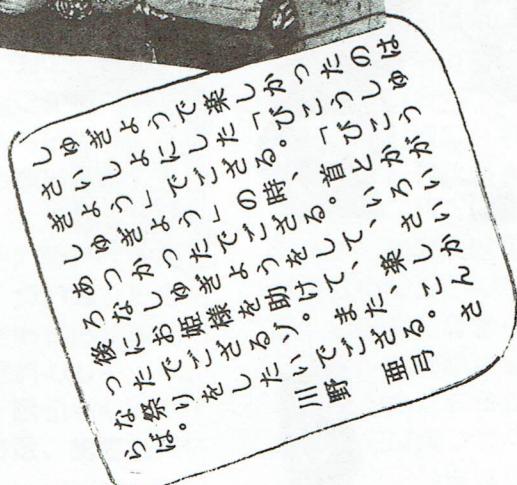
緑 ○ 手嶋

井筒屋へ入り階段をかけ下りるとそこでは、見失いそつになりあわてて別の店の店員さんに「あそべめし塚」と合い言葉を言つたら、店員さんは「知らないでござる」と心得たもので、あわてて店を出て尾行を続けた。



紫 ○ 金子喜久子

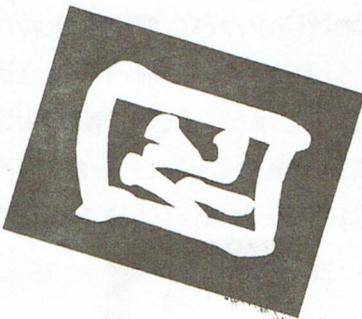
ブリキのピエロのハンスが団だったので、見つからぬように電柱の陰に隠れたり看板の後ろにいったり、みんな必死になつて隠れた。各忍者に番号を付けて呼び合つていたので、その順番を壊してはいけないと思つたのか、「隠れて」と言うと一列にそろそろ動くのが滑稽だった。お店では、店員さんが待ち構えている様子が目に見てわかり、こちらがいい言葉を言つとすぐに答えてくれ、5、6人の店員さんに手を振つてもらひ見送られた。



人形を持った占い師 吉柳 三枝子

子どもたちが忍者まつりの準備で動き始める頃、福岡地区でのビデオを見せてもらい、「ワアー、すごい！面白そう！」一言でいえばそう思いました。参加したら面白いだろう……と。しかし、子どもたち一人は、もう大きくなつてそれぞれ役どころがあり、「一緒に参加できないなあ。」など思つていました。でも、裏方なら手伝えるかなと思い、子どもに「手伝うことない。」と言つたら「凹になつてくれん。」と言つのです手伝えることはいいのですが、街の中を〇〇の姿で歩けとのこと、恥ずかしさが出てすぐには返事が出来ませんでした。しかし、次第に子どもから押されてその気になつていきました。

顔を出さない方法をあれやこれやと工夫し、当日、着替えをするまでからは、何人の凹の方々と一緒にいるものもあつてか恥ずかしさなど、どこへ行つたのだろうといつた感覚になつてしましました。街を歩き出すと、顔が見えないといつても人の視線を感じ、一人で照れ笑いをしながら歩いたり、立ち止まつたり次第にその気になり、初め思つていたよりは距離が短く感じたりしました。家族全員で参加出来、本当に楽しい一日をありがとうございました。



こま犬 吉田 和代

突然の参加で本当に美味しいご当地頂きました。“こま犬”に仮装しながら一抹の不安を覚えたものの、他の人の装いを目にしたとたん、地味なくらいだと感じた自分が恐ろしい。それにもまして衣装、小道具にいたるまでスタッフの方々の細やかな愛情に熱を感じた。

子どもたちを待ち、どうなるかと思ながらもいざ、旗を持つて自分を追う忍者たちを見つけたところから今おもえますつかり凹にはまつていた。

ちゃんと来ているか、危なくてないかという思いから振り返えつてはみたものの、子ども忍者の素直な行動に魅せられて追われることに喜びを感じた。逃げ込んだ店のマジックミラーの影から忍者の姿を眺めながら、指命書を手に次の目的に向かつて行く彼らの姿を眺めながら、寂しく思えた。

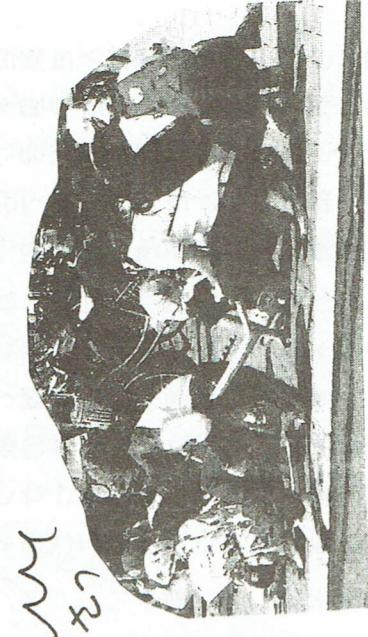
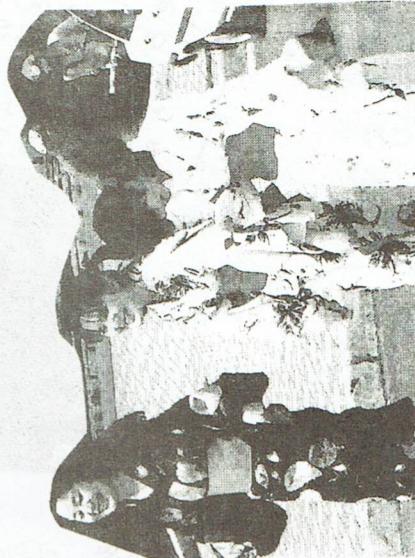
子どもたちは勿論、スタッフの方々の生き生きとした姿に接して体験させてもらい、こんな世界もあるのだと思つて子どもたちの立場からの感想しか言えないけれど、それを素直に楽しめたことがとてもうれしい。



鬼の子 高口 純子

初めてのうちは、子ども会の催物に参加できて楽しそうと思即、OKの返事をしたもの、日がたつにつれて少しづつ不安が過つてきました。それは、主催内容を聞き私に出来るだらうかという思いと、私の想像以上の規模の大きさだからです。

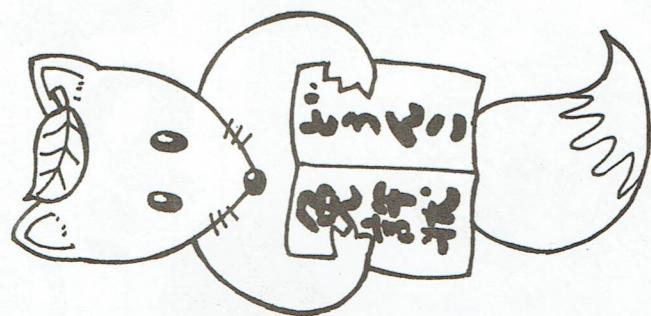
そして、当日、普段ではとても考えられない様な格好をして街を歩いたのです。これは、本当に私の思つていた以上の面白さでした。はつきり言つて子どもたちのためにやつてあるというより、自分が面白いからやつてあるという感覚でした。何が面白いかといふと、子どもたちの反応が一番でした。こちらへ凹の態度に敏感に反応してくれるので、もっと遊んでやろうと思つてゐるうちに、自分が子どもたちに遊ばれていますんじゃないかという気持ちになりました。自分も子どもに返つたみたいで本当に楽しかつたです。大袈裟かも知れないけれど、今までこんな新鮮なきもちを忘れてくくなあと思いました。





ただ、始まる時間が小さい子どもにとっては遅くまた、とびつきり暑かつたこともあって、修行の途中でぐずぐずする子も数人出てしましました。トンネル修行などは、2~3人しかくらない始末。前準備の苦労に比べちょっとがかりでしたが、首からキツネを下げてにこにこ顔の子ども達を見ると、どろんこ編を作つて良かつたなと思いました。

このような大きな取組ではとかくやつかいもの、おじやま虫とされてしまう3歳以下の子供達。でも、同じことはできなくとも、その子達が楽しめるやり方これからも探つて行きたいと思いました。



むちやくちや丸

忍者祭りの企画は子ども劇場の会員・つまり4歳以上の子供達を対象にしてなされていて、3歳以下の子供達にはかなりハードであることが分かつたとき、「3歳以下の子どもを持つたおかあさん達は、「自分達だつて、3歳以下の子供達だつて楽しめたいよねえ!」と、3歳以下の子供達の為の忍者祭りを「あそべめし塙! 忍者でござる」と同時進行させることにしました。今子ども劇場の中では3歳以下の子どもの為の自主活動グループ「どろんこクラブ」を中心として、参加呼びかけ、修行企画、小道具、修行帳作りなどを進め、当日40人ほどの参加で繰り広げられました。

修行は子供達にあわせた「尾行修行（アヒルさんとお散歩しよう）」「トンネル修行」「色修行」「たかいたかい修行」（しゅりけんをひろい、それとおなじ色の色紙を木の枝からとる）「みの虫修行」（コーヒー豆の袋に子どもが入つておかあさんが運ぶ）などが行なわれ、昼前にキツネの形の免許証をもらつて終わりました。一人前にふろしき頭巾をかぶつたミニ忍者達は、坂道をのぼつたり、桜に見とれたり、修行帳に印を押すのを嫌がつたりしながらも、汗だくになりました。

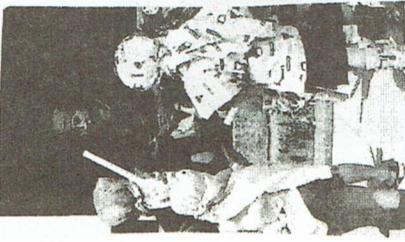




忍者むすび



忍者
観察



色	昼食場所	色忍者（通り名）
桃	イイツカコスモスコモン	傘鈴
青	納祖八幡神社	風使いのかげろう
赤	ジャスコ	紅椿のサブ
緑	文化センター	ジャコウ猫のアッコ
紫	明正寺	南蛮ギセルのドリ

おひいき〜いじ
がいざる

かくしも

かくしも

おおしゃまいた
これで尾行修業は
文化センターへ行き、緑色の
色忍者を捜し出し
手にいれよ。
ゆし塚の七人衆

密書

おおしゃまいた
これで尾行修業は
文化センターへ行き、緑色の
色忍者を捜し出し
手にいれよ。
ゆし塚の七人衆

指書

この刻までに
五つの修業を終わらせ
ます手はじめは
わらしへ修業だ。
忍者達の待つ
勝盤公園に結集せよ！

あかにんじやを、さがす
あかにんじやを、さがす
をじやすこそであかにんじや
つたさがすのがむずかしか

尾行修業終了。指令書をもらい、指定された場所に行つて、色忍者（七人衆）発見！ 色忍者のいた場所で、（ピンク忍者・コスモスコモン、赤忍者・ジヤスコ屋上、青忍者・のうそ神社、緑忍者・文化センター、紫忍者・明正寺）昼食の、忍者にぎり（引爆弾にぎりとも呼ばれる。おかげを中ににぎりこんだ大きなにぎり飯一個のみ）を食べる。

にぎり飯を食べ終えた忍者団は、色忍者から密書と修業帳をもらう。密書には、わらしへ修業をして勝盤公園に帰るようにという指示が書いてあり、修業帳にはわらしへ修業を始め、勝盤公園（修業の山）での修業の名前が並んでいる。

この刻までに
五つの修業を終わらせ
ます手はじめは
わらしへ修業だ。
忍者達の待つ
勝盤公園に結集せよ！

あかにんじやを、さがす
あかにんじやを、さがす
をじやすこそであかにんじや
つたさがすのがむずかしか

わらしへ修行



青 ◎ 嶋田

まず、勝盛公園の方向がわからず、これも子どもたちが進んでお店の人によねてくれた。いざ、わらしへ修行と勇んで通りに出たけれど、人の気配なし。どうしようかと大人で話し合い子ども服のお店なら入りやすいのではとの提案でどきどきしながら一番目の子どもが修行をした。快く交換してくれ一安心。次にカメラ屋さんでは、こわそなあじいさんから「もう何回も来ているから」と断られた。しかし、小さな子どもが一生懸命修行していることをわかつてもらわねばと大人も必死になつて「何でもいいです空のフィルムケースでも…」と言つて喜んでたくさん交換してくれた。このことに勇気付けられ、その後はたまたま道に停車した子連れのお母さんにお願いすると車の中や袋の中を探してくれたけど見当たらず、最後には子どもさんの食べかけの袋のお菓子と交換してくれた。これにはちょっとびっくりした。次には大胆にもちよつと通りかかった外国の男性に声を掛けようといふことになつた。

しかし、あいにく何もなつたのことで、お金を出されてしまった。これは交換できないので次にお花屋さんで修行することにした。こちらでも、快くアロエの鉢植えと交換していただいた。子どもたち全員がわらしへ修行をすることが出来て本当に良かった。商店街の方々の温かさや一般の方々のやさしさを感じながら修行を終えることができた。大人も顔がわからないということで行動がだんだん大胆になり、本当に「子どもの心」に戻つて楽しく修行ができたように思う。



わらしへ修行とは、昔話の「わらしへ長者」から生まれた修行で、(と言つても)「わらしへ長者に比べて、ずいぶん強引な・・」という声も・・自分持つているものを、人に頼んで何かと変えてもらう修行です。大人にどつては一番ためらわれる修行のようですが、子どもは大人の思い以上にこの修行に燃えた所もあつて、ずいぶん良い収穫を持ち帰っていました。でも、この修行の収穫は、なんと言つても「これを何かと変えてください」と頼んで変えてもらつたときの嬉しさ、「人の暖かさ」に触れたときの心の豊さ、感謝です。商店街の人達は本当に暖かかったけれど、中には小さな子どもが話しかけているのに「うちはだめだめ!」と冷たい応対のところも・・

さて、
わらしへ修行の忍者たちは・・



赤 ◎ 勝山

まずは私のハンカチをたまたまジャスコにいたお父さんの知り合いの人にポケットティッシュを交換してもらひ、それを通りがかりのお姉さんからマドナルドのピラに、そのピラがえんぴつになつた時にはホットして、それがポケットティッシュに……。この頃は全員ちよつぱり不安な気持ち。そして最後にやさしそうなおばさんから美味しいそうなお饅頭3個をもらい、この時は全員「やつた!、やつた!」と大喜び、走つて山に戻りました。

緑 ◎ 大庭

小さい子が勇気をだしてお願いしても知らん顔の人が多かつた。少々残念でも、最初の物が何もなかつたので、子どもたちの思いつきでタンポポから始めた。

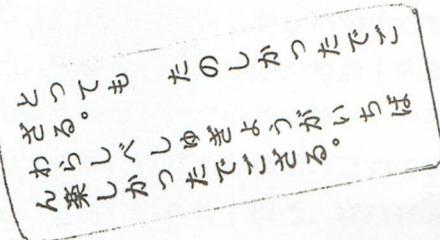


頭、失敗の巻

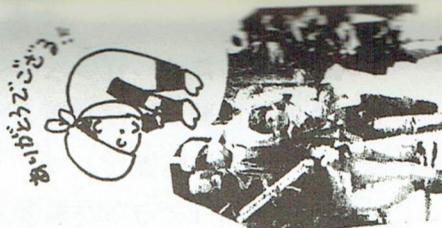
赤 ◎ 山口

頭である私は、全部を知つてゐる訳で前日からわらしへ修行が気になつて頭から離れず、ずっとと考えていたら何と、尾行修行が終わるといきなりわらしへ修行を子どもたちとしてしまいました。

またも、仲間といつ宝を増やせた一日でした。本当に劇場に感謝――

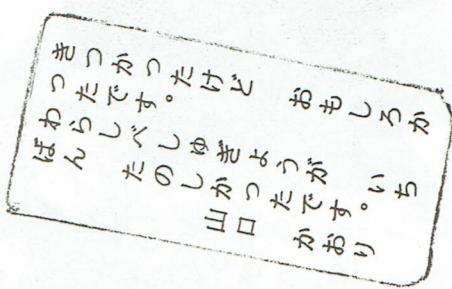


緑 ◎ 金子直哉
わらしへといふことを知らない人はばかりの班だつた。初めはテレフォンカード2枚で始めた。なかなかうまくいかなくて苦労した。でも、みんな「あの人、交換してくれそう」とかいつて協力し合えた。



紫 ◎ 行武

昼食をとつた明正寺に落ちていた黄色の鉄砲玉アケを元手にまずアタックしたのは本町の果物屋さん。何もないといふのを粘つていたらみかんを入れる赤いアミをりんごの形にしてお兄さんがくれた。次は、100円ショップに子どもたちだけでズンズン入つていった。店内は込み合つていてアメを2ヶ獲得して戻つてきた。アッパレ! 次は福引きをやつているところへいつておばさんと交渉してチョコをアケと交換。最後は、井筒屋の横で果物・野菜を売つているおじさんからみかんアケと交換してもらひ子どもたちは大満足。あまり屋さんとおもちゃ屋さんでは、それそれ「さつきも来たから換えてあげたばかり」「留守番なので何もないの」とやさしく断られたけど、どんどん良くなる品物にまたまた続けたいやる気いつぱいの子どもたちでした。



紫 ◎ 金子

最初はティッシュケースを「博多の里」1個に替える。買い物かえりの人を探して「博多の里」を甘栗10個程と替えるいろいろな人に当たつてみるとかけんな顔をされたり、「お金と替えてもいいがなどと聞かれ子どもたちが何やらがつかりしている様子なので、「コンビニエンスストア」に入り甘栗をガム3個と替えてもらう。2個をみんなで分けることにし、1個を子連れの家族に声をかけると、子どもが大事にしているクレヨン・しんちゃんのハンカチに替えてもらい、みんな大感激。

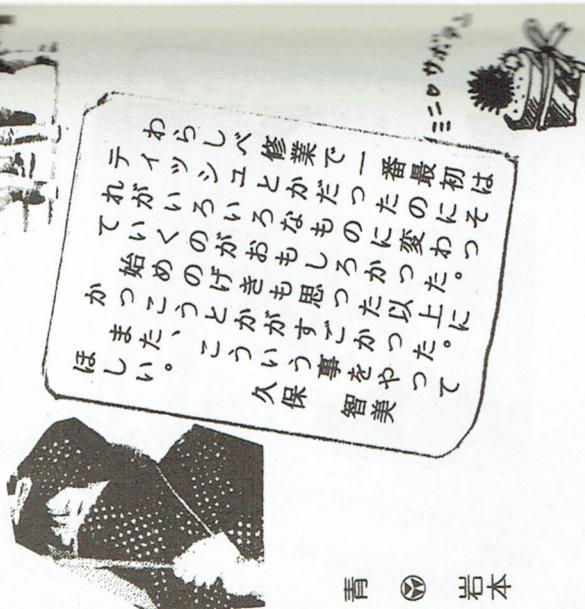


緑 ◎ 諸富

最初にお菓子屋さんに入り、ティッシュと交換したらラムネ菓子をくれたので、他の子どももお菓子屋さんに入りましたが、通行人の人にも声を掛け成功。我が家は、お菓子ばかりのわらしへ修行となりました。



37



青 ◎ 岩本

指令書に従つて「のうそ八幡」に着いたが、他の忍者団はもうおにぎりを食べて出発するところだつた。廻ましながらわらしへ修行へと向かつた。途中で会う人も少なく、入つたお店が「もち吉」だつた。ティッシュペーパーと交換してもらつた物は、な、なんとあの有名な水だつた。子どもたちのうれしそうな顔は、いつまでも忘れられません。この貴重な水を他の物とは交換する気になれなくて、勝盛公園に着いてみんなで分けて飲みました。本当においしかつですよ!

まず、交換するものが何もなく、やつとも一人のお母さんが出してくれたポケットティッシュ2コを持って納相八幡を後にした。まず飛び込んだカメラ屋さん。丁寧な説明の後、おじさんいわく。「もう何回も換えたけんよからうーが」といささかツッケンドンに断られる。次に行つたのは、とある床屋さん。そこのおばあちゃん、説明の途中「ウンウン」と一々こりうなずいて聞いてくれていたので、「シメた」と思うのもつかの間「うちにやそげなもんはなーもなか!」「あつ、そうですかスミマセン……」決意も改に道を横断していざ! 花屋さんへ。「ウン、何か換えるとやろ、これでいいね?」と差し出されたミニサボテン。「うわー、いいんですか?」「ありがとうございます!」と何度も何度も頭を下げて花屋さんを後にしたのでござる。3度目に成功したわらしへ修行であった。花屋のおじちゃんありがとうございました! カメラ屋のおじちゃん、床屋のおばちゃん、勇気を持つて飛び込みました。話を聞いてくれてありがとうございます!

38

桃 ○ 久保

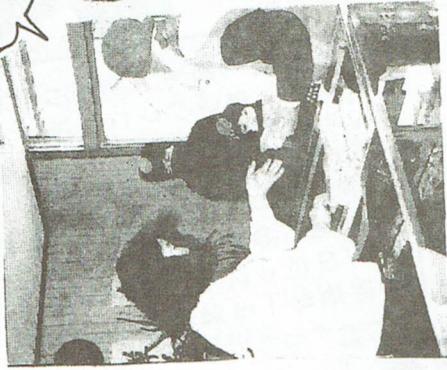
思い返せば、本来のわらしへ修行とはいえないなかつたみたい。取り替えた物をどんどん替えていくところが面白いのに、後で子どもたちに分ける時…なんて考えてしまつたりして最初にティッシュペーパーとキーホルダーを取り替えた業屋さんの景品を小出しにして取り替えたものはキープしていた。考えればせこい！でも、子どもたちは、いろんな物が手に入るのを楽しんだつた。替えてくれた人…ありがとうございます！感謝、感謝。



赤 ○ 山田パパ

30代前後の店員さんが冷たがつた。小さい子が言つているのに「うちは、できません」の一言。ムシムシもうあの店にはいかん！インチキで「知人の店」に入つたが、言葉もちゃんと言えない子がそれでも一人で「お願いします。」「ありがとうございます。」言えた（言葉には全くなつてない）のは、うれしかつた。

あまいじゅう
あまい4年！



なにもわからず頭をひき受けたものの、説明を聞いてから今までドキドキの毎日でした。特にわらしへ修業などとてもしんぱいでした。なんだけどみんなでくわました。特に男の子など忍者になりきつてくれて、頭の出番はあまりなかつたようすです。初めての経験で、とても思いました。そして当日に至るまでの準備の大変さを思うと、何か手伝いを私もしたかったなどと思いました。本当にご苦労様でした。

藤田

これは、見知らぬ人に声を掛けるという点では良い勉強になつたと思う。班で1つじゃなく一人ひとりが一度づつ声を掛け、全員がこの修行ができるように配慮した。たいした物はなかつたが、声掛けをし何かに替えてもらつたことを喜んでいた。ただ店に行けば、いろいろあり楽ではあるが、店には入らず道行く人に声を掛けた。



39

赤 ○ 山口

まずは手持ちのポケットティッシュをビラを配つてお姉さんにエンピツと交換する。エンピツを八百屋のおばさんから何とナタテ・ココに…ナタテ・ココを持って花屋さんへ。大きなガーベラをいただき、おもち屋さんへ。そして、花がおいしい紅白饅頭1個に変身！子どもたちは大よろこびで勝盛の山へ直行。



柴 ○ 茅野

柴○忍者団は、300円のボールペンを持ち出し、それをわらしへ修行にしました。なかなか「このボールペン」と何かと替えてください」という言葉が出ませんでしたが、おもしりきつて声を掛けみてみると、なんと1300円が3500円のコサージュと替わつてしましました。皆でウアヒ声をあげ喜びました。それがう2、3回声を掛けましたが、断られてしましました。がつかりしたけど内心良かったと思つてゐるようでした。みんなが生き生きしているようで楽しかつた。



赤 ○ 大谷

ポケットティッシュとしゅりけん（折り紙）でわらしへ開始。「誰に交換してくださいって言う？」「やさしそうな人！」子どもの描いている「やさしい女の人」にお願いして、最終的には5個の品物に変身。子ども忍者たちのたくましさに2人の大人忍者は、「すこいネッ」と目を見張るばかり。

何がどうやさしい。



知らない大人に声をかけたり、等、何をかを聞いたりしたり、親の気持ちはどうかなう。しりごみして無理なことはできない。ふくらはらに、親の気持ちはどうかを大人に声をかけました。いきいきと遊んで楽ししました。忍者達は大きめのふくらはらに、いきいきと遊んで楽しめました。生き生きとした子ふくらはらに、親の気持ちはどうかを聞きにきました。一生けん命で感じたりしゃべりました。



桃 ○ 伊東

わらしへ修行の途中、店の前で作戦会議をしていたら、おばあちゃんが「新聞で見ましたヨーとてやうにですね、がんばつてね。」と子どもの手に二百円握らせて去つて行きました。子どもはびくり、唖然としながらも「ありがとうございます！」といながら「もーかつた！」と大喜び。世間の人って温つたかい目で見てくれる人もいるんですね。

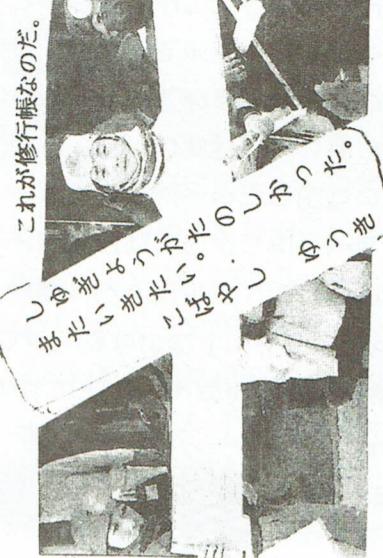
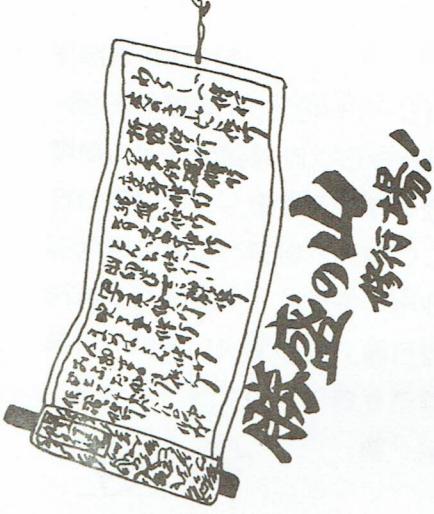
40

桃 ○ 川野パパ

1つじゃなく一人ひとりが一度づつ声を掛け、全員がこの修行ができるように配慮した。たいした物はなかつたが、声掛けをし何かに替えてもらつたことを喜んでいた。ただ店に行けば、いろいろあり樂ではあるが、店には入らず道行く人に声を掛けた。



39



これが修行帳なのだ。

影忍者団・紹介

修行方	通り名
おりづる修行	風のしんべえ てっぴー
人相描き修行	ハラパン 珍木珍
恋のキューピット修行	ほたる 居酒屋おかみ ミルキー
写真修行	マイマイ しゃつちよう
幽玄道士に挑戦修行	いわし
おれ修行	鬼がます伝三郎
背文字修行	酒乱のそべえ
吹き矢修行	ようちゃん お京
変身修行	なめ 変身のヨシ まなみ
なわじび修行	よもぎのもち 風鏡の火山 ベンベン草のアゲ
豆運び修行	どんびの亮 たかひー あくん
とんび修行	かぜの丸裕の介
ジエスチャーバトルロイヤル修行	ジュニア丸 もみじ
空気鉄砲修行	賀ちゃん お茶 ガッピー
伝報修行	えいちゃん ドラエモンの丸 たーしー

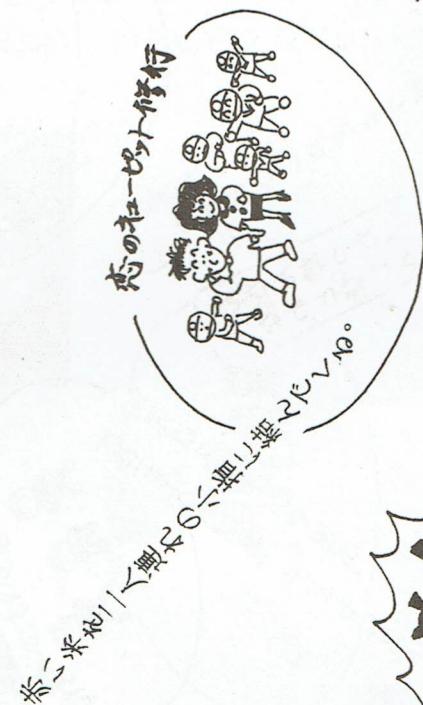


緑 ◎ 謙山ママ

名前は忘れましたが、アベックに赤い糸を結びつける修行です。こんなお願ひを聞いてくれる人がいるのだろうかと思いまましたが、1組目でOKが出ました。全て子どもたちに言わせましたので、断られると辛いなあと思っていました。よかつた、よかつたという感じです。

桃 ◎ 伊東

恋のキューピットですか？赤い糸で子指を結ぶ修行。やさしそうなカップルに頼んだら、すでに先客があつて2度目だつたそうです。「絶対幸せになりますよ」と皆でたのみこんで気持ち良く二コ二コやつてくれました。子どもも二コ二コと楽しそうに糸を結んでいました。



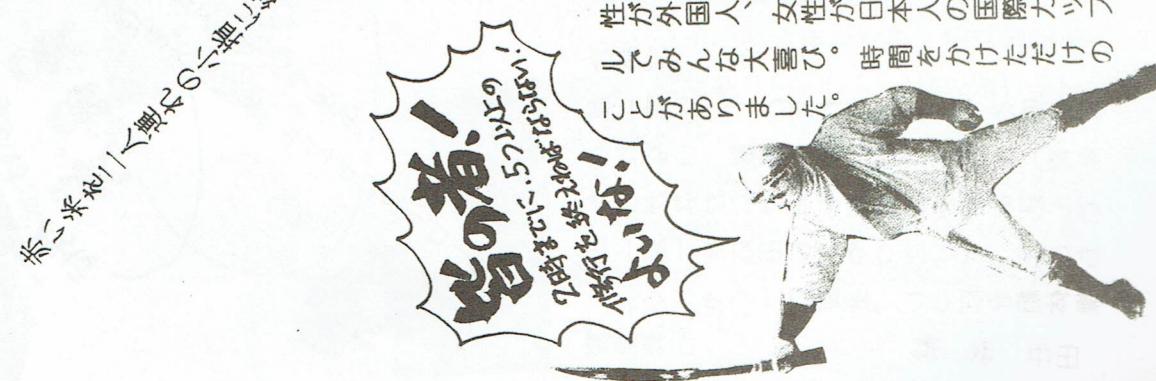
恋のキューピット修行
恋の糸を結んで運んでいた。

桃 ◎ 久保

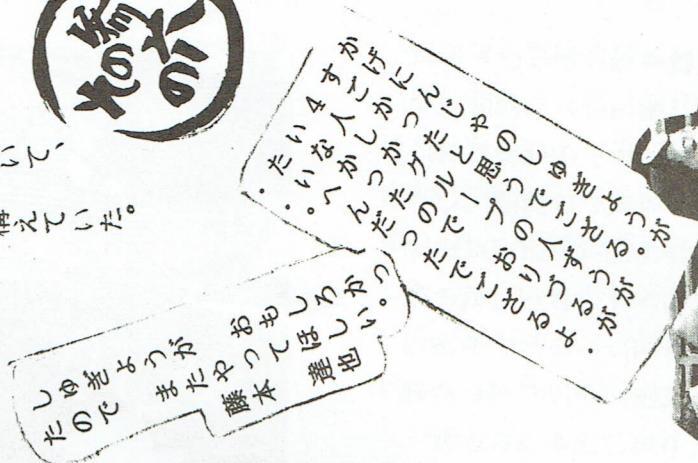
赤い糸を使い回すのかと思って、一旦結んだ赤い糸をしつかり回収してしまった。恋人たちがメソナサイ！（小さい子には、赤い糸の意味がわからなかつたみたい。修行方が修行を始める前に少し説明した方がよかつたかも。）（）

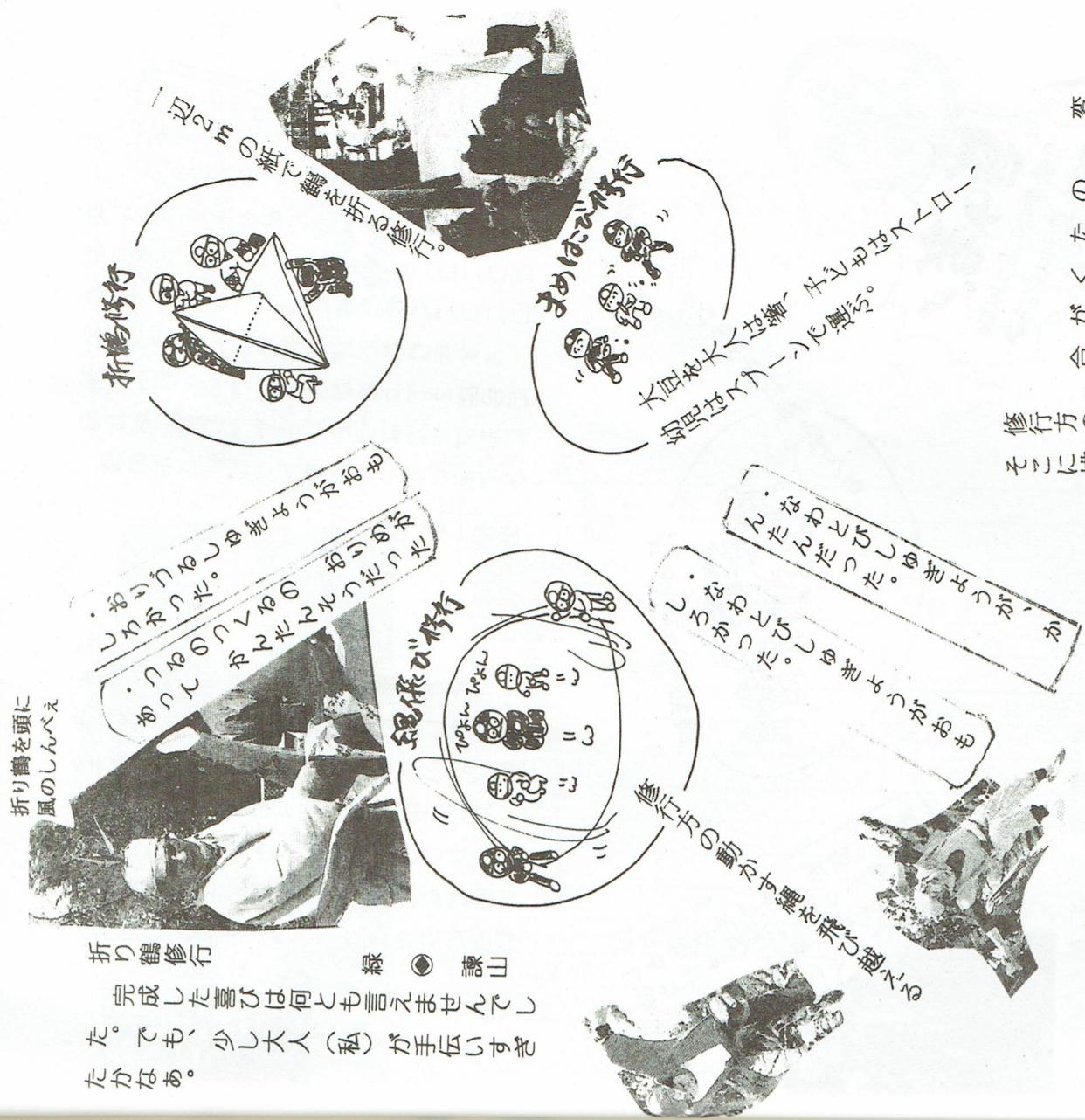
桃 ◎ 安部

なかなかカップルが見つからず、時間が過ぎるばかりであせっていました。ところが、やつと見つけたカップルは、男性が外国人、女性が日本人の国際カップルでみんな大喜び。時間をかけただけのことがありました。



勝盛の山では、修行方が修行所を開いて、待ち構えていた。



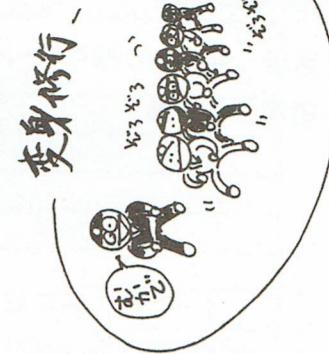


折り鶴修行 緑 ◎ 謙山
完成した言ひは何とも言えませんでした。でも、少し大人(私)が手伝いすぎたかな。

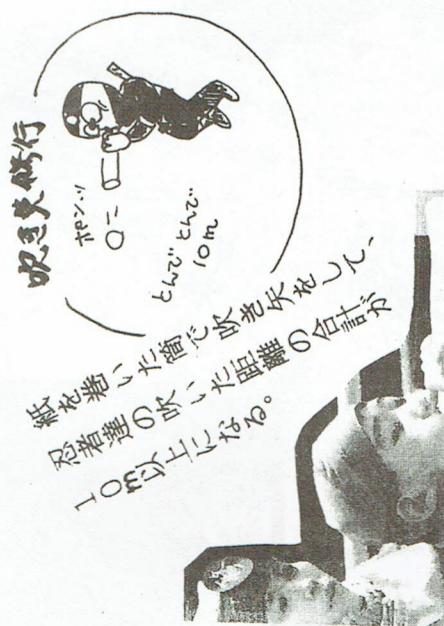
変身修行 桃 ◎ 荘田

「くじやく」に変身。しつぽを組体操の「肩」を応用してやつたけど、子どもたちがなかなか体を倒すのを呑み込んでくれない。最後に頭役の三浦さんへ青年が「鳴け!」と言われて「?」と鳴いて合格。

修行方の持つ札を引いてそこに描いてあるものに変身する。



43



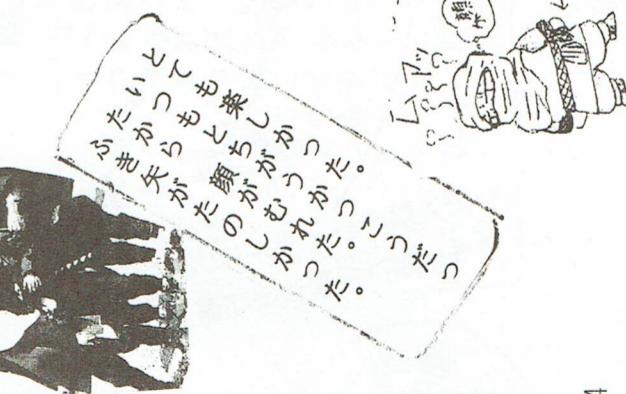
苦労した修行 緑 ◎ 謙山
紙鉄砲で空缶をたおす修行。私たちが最初だつたらしく、影忍者も様子がわからなかつたようです。1人1回しか打てないルールもすぐにくずれ、何回も何回も打ち続けてようやく3缶をたおすことができました。

ふき矢修行 紫 ◎ 金子

「頭」がなかなか飛ばせなくて、みんなの足を引っ張る。竹鉄砲は、お父さん忍者ががんばっていた。

ふき矢修行 緑 ◎ 結富

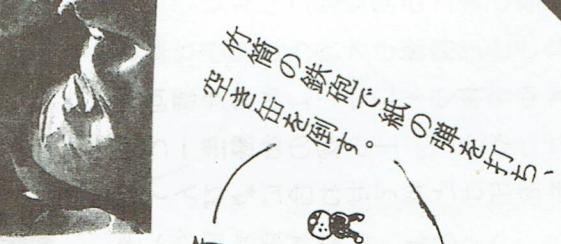
小さい子が一番向こうまで飛ばしたには、他の忍者も嘆息とともにびっくり。みんなで笑ってしまいました。



44

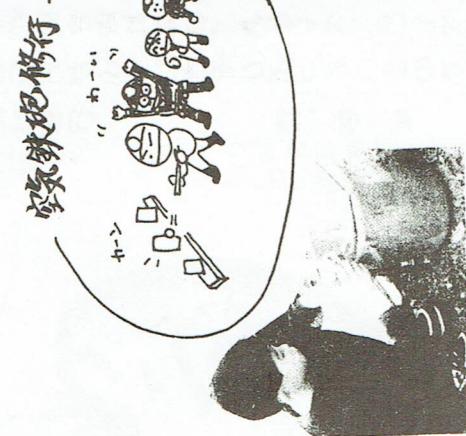
ふき矢修行 緑 ◎ 金子直哉

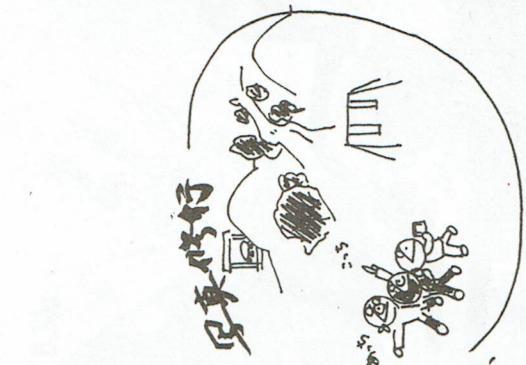
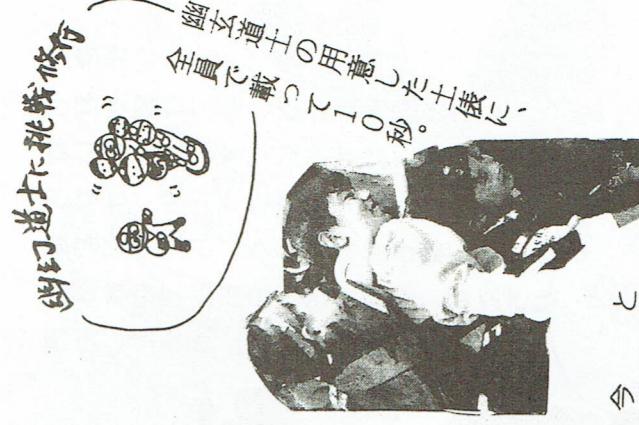
一人だけ残つてしまつたけど、みんな「がんばれ、あと少し。」などといつて助け合う。



苦労した修行 紫 ◎ 謙山パパ

紙鉄砲の玉が固すぎて押せない、逆に緩すぎて前に出ない。一人ひとり必死でやつっていました。いつまでたつても出来ないので「頭」の私が出て、かつこよく決めてやろうとしましたが、缶に当たらない。何回やつても、どんなに近づいても当たらない。「あせーる、あせーる」としかし、忍者の一人がねらつていた缶の2つ隣の缶にまぐれ当たりしてくれて無事修行を終えることが出来ました。あしんどかったです。





でんぱうしゆぎようで、「きみのなまえは」というのだから。5才の女の子に、まえの人が、「きみのなまえは」といふと、そのまま、「「ちのちゃん」といつた。「ちがう、ちがう、まえの人にくいたのを、次の人に言うと。」といふと、次の人には、「きみのなまえは」とみんなでいいつて、その子は次の人に、「きみのなまえは」といった。ふう、よかつた。

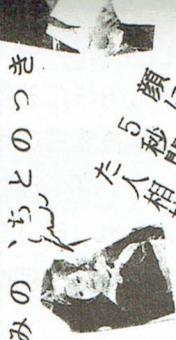
緑 田 山田 寛子



せなかじしゆぎようがおもしろかったです。

「イヌも自分で自分で酒をあわせます。」

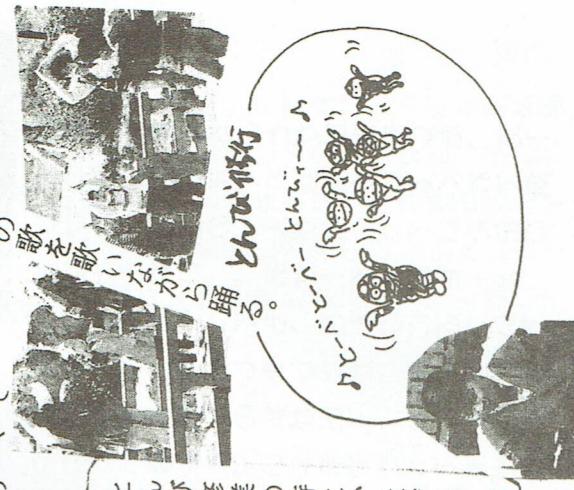
背中に書いた文字をあてる一筆文字修行



むにんそうがきしゆぎようが
かむずかしそうかとおもつたら
かんたんそうだつた

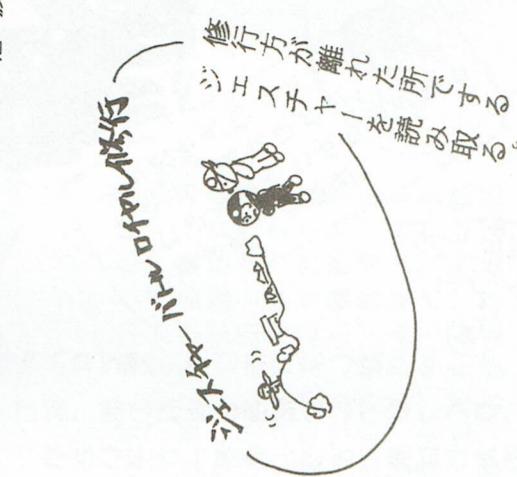
人にんそうがきしゆぎようの
人がおもしろかつた。

二時

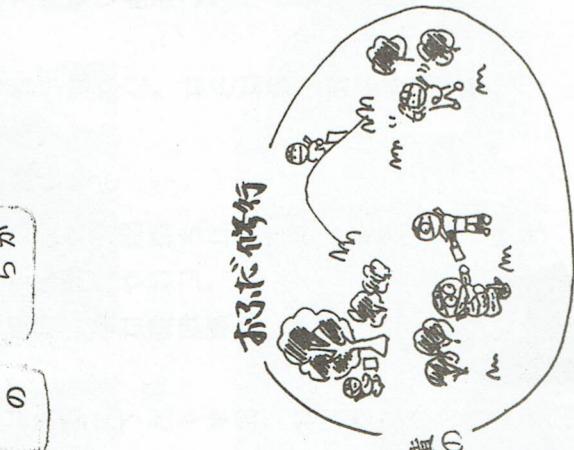


どんび修行がんばり修業の時に、はづかはがらすにできた。安最後の戦い

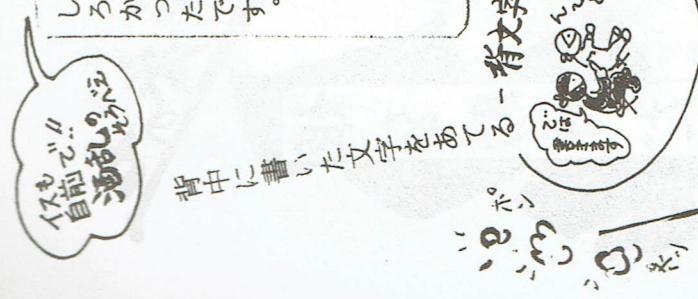
安部裕介

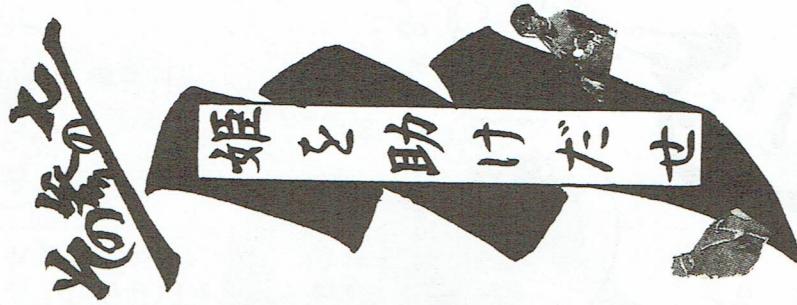


（おふだ修業方）
「おふだ修業方」
ら、なかなか来んで、ひまやつた
と思つと、ひろこは、がきた。
「あつお兄ちゃんみつけ、
ちやろ。いつくる！」
「オイオイ、ちよつとまで。
よし！」
山田宗和



公園に隠されている赤・青・黄の
3色のお札をさがして来る。





姫と助けだせ

さて、きびしい修行を終えて戻ってきた忍者団は疲れ果てていた。しかしながらその内に闘志をたたえ気迫はますます張っていた。

この一部始終を見ていた者がいた。根来衆の密偵である。王龍山にある根石磨の別邸にて事の次第を聞いた赤まむしはただ笑い飛ばすのみであった。

「あのような者ども、我が根来衆の敵ではござらぬ。いなこのように踏み潰してくれよつぞ。」

根石磨はと言つと、事のほどほりが冷め早く千姫に会いたいとその事ばかり思つていた。探索の目を恐れ姫は幽閉されていた。

七人衆は修行に耐えた忍者団の力をねぎらい更なる決戦に備え一層志氣を高めていった。そこへ…

「頭領、ついに見つけました。」

と走り込んできたのは女装の密偵傘鉢であつた。

「根石磨達の居所をつかみましたぞ。やつらは根石磨の別邸にあります。」

「出てこい根石磨、赤まむし、姫をどこにやつた。」
かげろうは館に向かって、千里彼方にもとどくような声で叫んだ。その時雷鳴が轟き渡り一陣の風が吹き抜けた。視界がひらけた時、忍者団の前に一団の黒い影が現れた。

「ほほほ、来おつたな、来おつたな。」

甲高い声で笑う根石磨。

「返り打ちにしてくれる。」

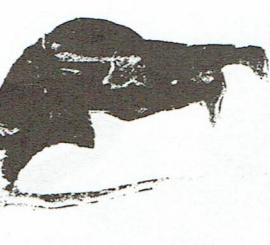
地の底から響いてくるような赤まむしの声。赤まむしは続けて言つた。

「よくここまで来た、ほめてやろう。その勇気に免じて姫の幽閉先を教えてやろう。ただし、それは我等を一人残らず倒した時のことだ。見るがよい。」見ると根来衆達がそれぞれに一枚ずつの札を持ってゐるのであつた。

「この札をすべて集めると姫の居場所がわかるようになつてゐる。頑張つて集めてみよ。」

どこまでも卑劣な赤まむしのやり方であつた。

かくして決戦の火ぶたは切つて落とされた。一人一人は弱いけれど力を合わせて闘つめし塙忍者団、苦戦する根来衆、一進一退の興亡が続いた。やがて根来衆が一人また一人と打ち倒されて行くとめし塙側に勢いがつき根来衆は潰壊となつた。



激しく息をせき切つて話す傘鉢、休まず走りぬいて來たらしかつた。

「それでは姫は、姫は御無事か。」

頭領かげろうの問いかけに、

「どうやらどこかに幽閉されておられます。それがどこなのか残念ながら…。」
と口にもある傘鉢。

「そうか、しかたがない。ならば敵の様子を伝えてくれ。」

「はい、敵はすつかり油断している様子、何の備えもしておりません。」

それを聞いてかげろうを始め七人衆は勝利を確信した。
「皆の者、我等に勝算あり、全軍出陣！」

かげろうの声が高らかに響き、忍者団は闘の声を上げて応えた。

疾風のように進軍するめし塙忍者団その兵力約四百、むかえ打つ根来衆は約五十、数の上ではめし塙有利であるが、根来衆は一人一人が一騎当千の悪党達、将に互角であつた。何はともあれついに両軍は相対することになつた。

根来衆は一人残らず打ち倒され根石磨と赤まむしもどちらえられた。そして皆の集めた札を並べてみると一枚の絵図面となつた。それには古ぼけた祠が描いてあつた。

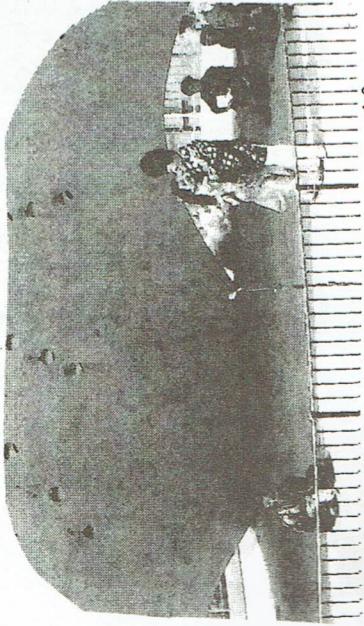
「この祠なら見たことがある。ここへ来る途中にあつたぞ。」

一人の子ども忍者が言つた。一同はその子の案内に従いつつに千姫を救い出した。

馬を飛ばしあけつけた安保、ようやく気を取り戻した千姫、久方ぶりの父と娘の再会であつた。ひつしと抱き合つ二人。一同ももらい泣きしていた。



姫、救出！



結び

「よくぞ姫を助けてくれた。ほうびをどうぞ。」殿は言つた。

そして、忍者団達に「免許皆伝の書」と「秘術のもと」が授けられ、影忍者達に「影忍者認定書」、忍達に「忍影免許の証」が与えられた。

「では、我ら七人衆、これにて失礼いたします。」
七人衆は、今日一日ともに戦った忍者団に別れを告げ、風のごとく走り去つた。・・と、その瞬間！

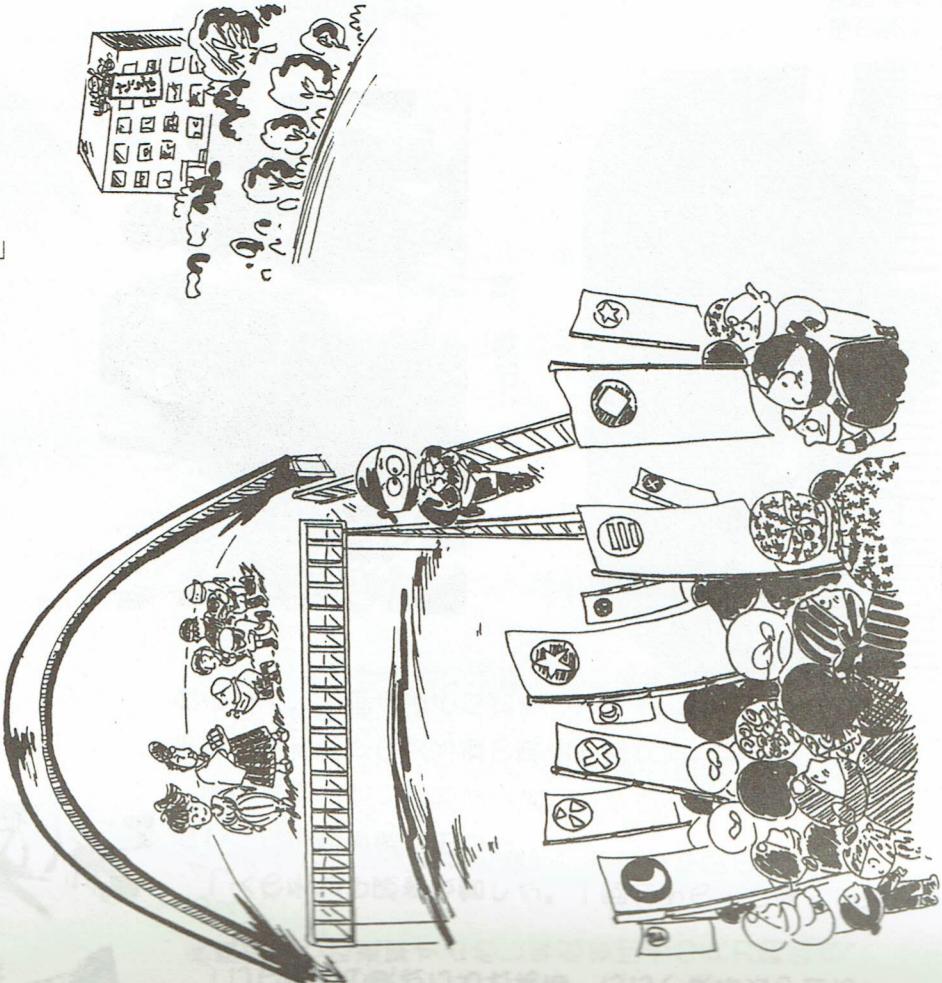
「皆のもの！あれを見よ！」殿が叫んだ。

なんと、500m以上も離れたマンションの上に、今消えたばかりの七人衆が手を振つてゐるのではないか！

「ウオー！」忍者達は、今さらながら七人衆の技の見事さに、歓声をあげたのである。

そして、「さらば」と書いた幕が風にたなびいたかと思うと、七人衆は、また一瞬のうちに空に消えた。・・。

忍者達は、去りがたい気持ちに後ろ髪を引かれながら、帰路についたのであった。



あそべめし塚！ 忍者でござる
全編の終わり・・・

写真で見るめし塚の一日

9:30	10:00	10:30	11:00	11:30

続々とやって来る忍者達

お頭・打ち合わせ

忍者でござる

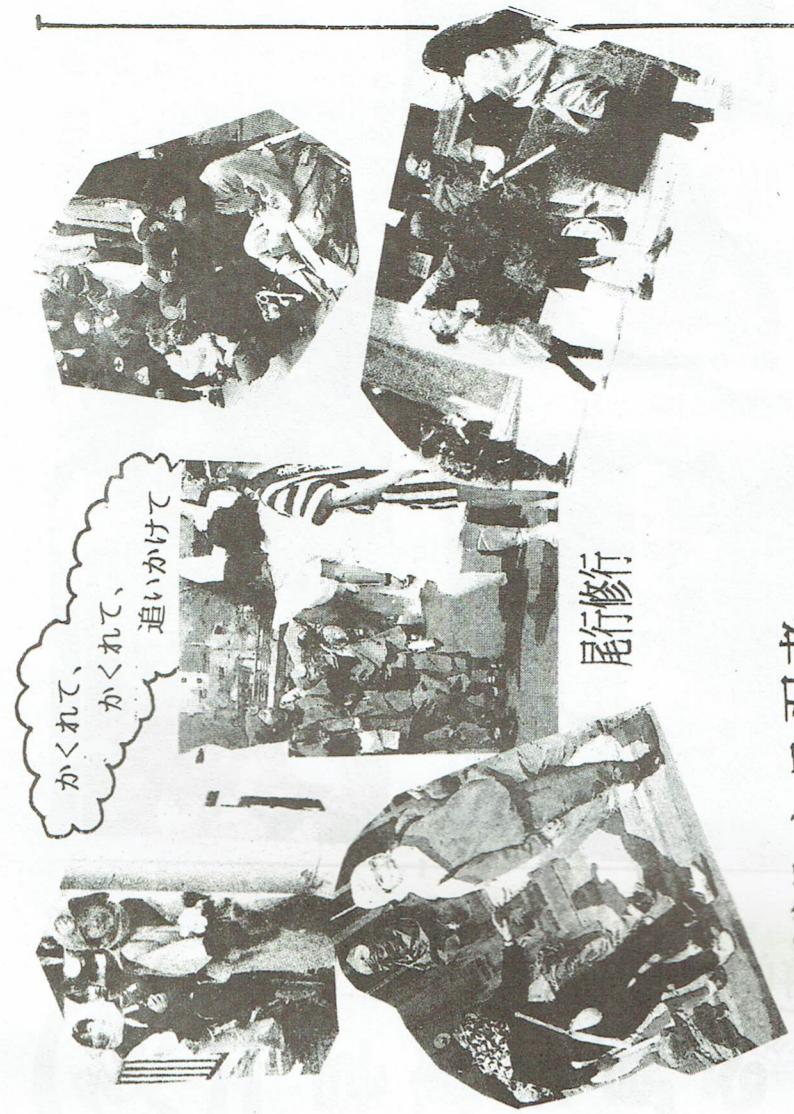
忍の姫をやつてやつた！

忍の相撲をもらつて尾行開始！

49

50

11:30



12:00



12:30

12:30

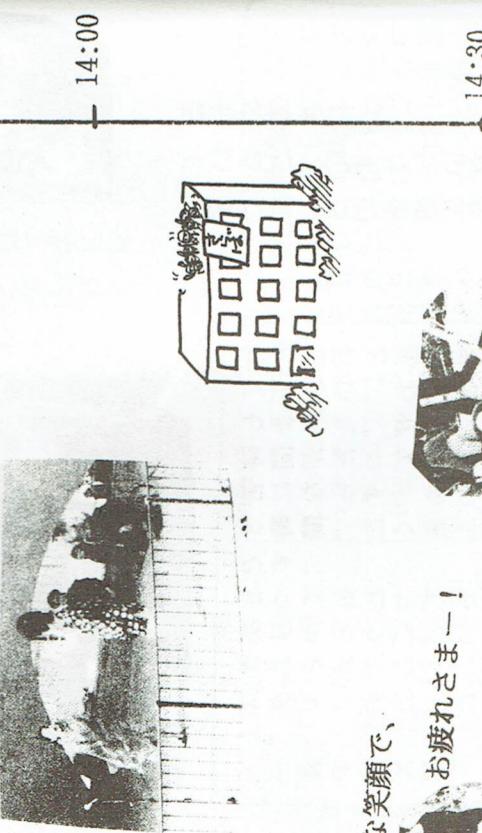


勝盛の山で、修行

14:00



-3-3 伝報修行 -3-3



52



忍の里 めし塚の里でおさんで

桃 久保

たいへん楽しく参加させても
らつたでござる。何度も集まって話し合いをし
たと聞くと、よけいに大変な
一大イベントであつたと感じ
たでござる。ただ修業をするだけでなく、
あのラストの散り方はみごと
おみやげにもらつた巻き物は
我が家家の家宝にするでござる
。。。

こども劇場及び七人衆様
父(43歳): 疲労度100
子(26歳): 満足度100
以上が4月3日(日)帰宅
後の夫々の表情でした。
ありがとうございました
母

またやつてほしいです。こん
どは おかあさんと妹といき
たいです。 藤本 美和

久しぶりにミシンをカタカタ
いわせて一生懸命衣装作りに
励んだでござる。親子三人、
もハテな衣装で尾行修業もない
が悪く暑かつたけど、心地良
い疲労感で親子共々楽しめた
いい日があつた。いつも心の中に持つて
いるものをうまく表に出すのが苦手
な長女が、忍者になりきつて
いるのには驚いたでござる。
一生懸命作った衣装の為にも
一回で終わらせるのは歯がゆ
いのでござる。それにしても ハラが立つ
のはひどさわがせな週間
天気予報だ!! 岸 佳代



あつかつたけど いろんなと
ころに いつて おもしろかつ
た。
とてもおもしろかつた。
まだ このような会があつた
ら ぜひさんかしたい。

頭の忍者が気分を盛り上げ
てくださつたので、親子で樂
しませてもらいました。
勝盛公園での修業をもつと
いろいろとやってみたいよう
だつた。(子どもだけ)
親はまず体力修業をしてく
るべきであった。・・・

げきが おもしろかつた。
てきを、きつた。

たのしかつたけど、
あつかつたでござる。



てんじんでしたのはうが
たのしかつた。広いどこでた
かつたけど こんどは し
ようがいぶつで 大あばれで
きんかつた。 荘田やすひこ



赤 大谷

一番年上で十才の男の子が、始めのう
ちは「こんなことして何が楽しいん」
と、少々しきけ気味でしたが、尾行修業
が終わりジャスコで赤忍者を探す頃にな
ると「お頭、〇〇しよう!」とだんだん
積極的になりだし楽しそうでした。



おかしな出で立ちの集団にみどれて、
つい車を止めてながめていた人…後ろの
車にクラクションをならされていた。

一言で言えば、すごい企画

ありますスタッフの方、たいへんおつ
かれさまでした。というか、つ
つともどつても楽しかった
3時間、たくさん歩いたのに
時間がたつていて、びっくり
しました。ぜひ来年も続けて参
加下さい。わざをみがいて参
したいと思います。 花田

緑 大庭

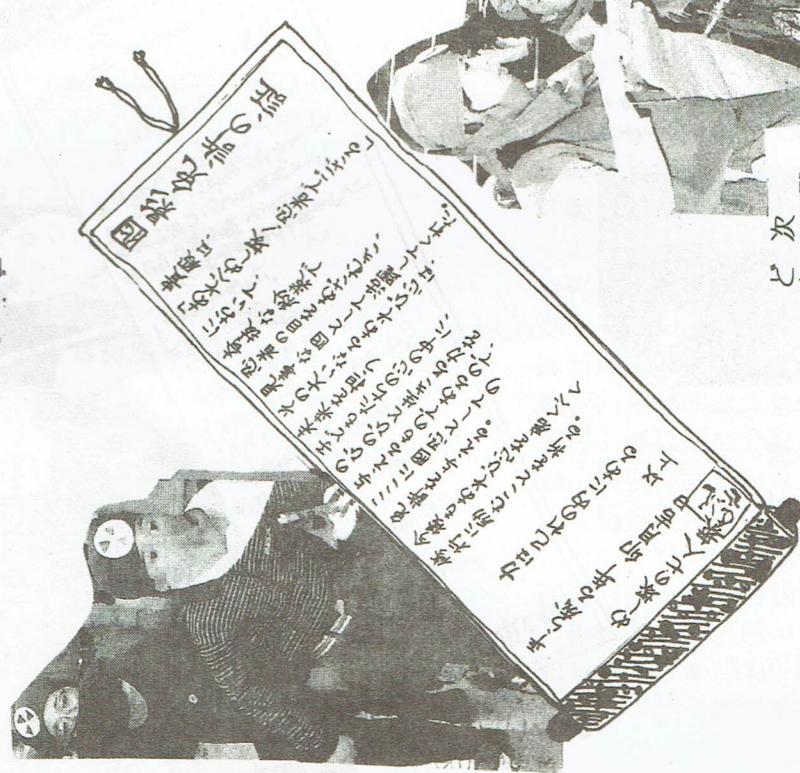
子どもたちの生き生きとしたところを見
ていると、恥ずかしいなんて気もなくな
るものですね。

お天気に恵まれ、桜がほこ
ろび始めた勝盛公園で、楽し
い想い出が1つふえました。

知らないブロックのお友達と
仲良くなり、心を1つにして
楽しく、修業をつむことが出
来ました。今日の日を迎えるにあたつ
て、どれだけの話合いと準備があつたかと想像すると、影
忍者の方たちのアイデアと実
行力に頭が下がるのみです。
「免許証伝の書」は居間に
かざっています。 岩本

緑 金子直哉

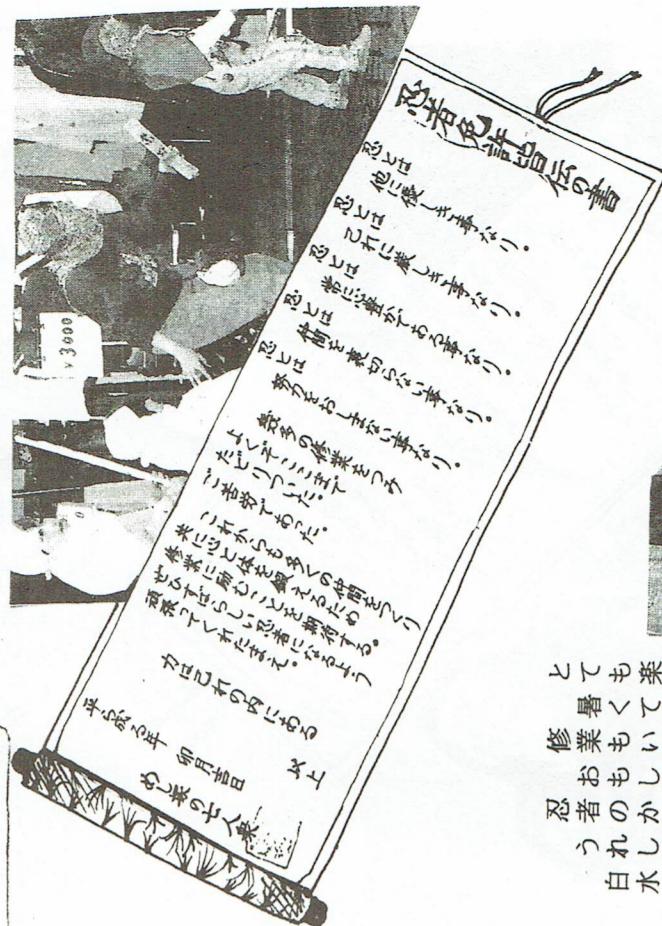
残り時間が少ない頃、子どもが「はよ
次にいく、もっともっとしようよ。」な
どといって、みんなうれしそうだった。



- ①忍者たいそつはおもしろい
- ②ビエロは、足が早かつた。
- ③かけ忍者はかくれるのがう
- ④おにぎりは大きかつた。
- ⑤わらしべしゅぎようはな
- ⑥かなか。のこりは5つのしゅぎよう
- ⑦かくじ。くろ忍者はなかなかない
- ⑧たのしかつた。

すばらしい企画でした。
久しぶりに童心に帰つて、
子どもも以上にワクワクして、
は、凹を尾行している子ども達
は生き生きとして心から忍
物になり切り、壁や電柱、又全体を見ると、一部の大人の方
方が忍者になり切れず恥ずか
しがつていいようでした。上
から見るのではなく、子ども
と同じ視線で遊ぶことが大切
だと思います。

川野 雅美(パパ)

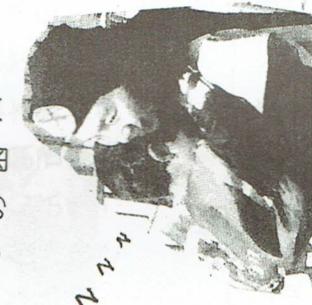


このまえよりもずっとおもしろかつたでゴザル。お口をおいかけるのは、ちゃんとがてだつたでゴザル。ヨツトとおもつたのでござる
おもしろかつたでゴザル。またしたいすぐしゆ
たいとおもつたのでござる
(へさらば) そつだ しおり

翌日からふともものが痛くて、仕事中困つた。忍者歩きをするとかえて楽なので、仕事中も廊下を忍者歩きしてしまつた。

とても楽しかったけど暑くてきつかった。
修業もいいいろいろあっておもしろかった。
忍者のかつこうができるうれしかつた。

白水 聖乃・章文・佳子



頭として、無事終わるだろうかとドキドキしていましたが欠席者もおらず、一致団結して数々の修業をこなしていけた事が、何よりもよかったです。

特に一番心配していたわらしへ修業・町の人の優しい気持ちが伝わってきました。

この日に至るまで、青年達をはじめとして色々な方のご苦労があつてむかえることが出来たこと、とても感謝しています。

本当に疲れ様でした。
楽しい思い出をありがとうございました。

山口 まゆみ

忍者まつりにハマッた猫!



忍者体操師 ジャコウ猫のアコ

11月頃だったろう。忍者祭りの七人衆になつてみないかとの誘いに、「どうせやるならドンとハマッてみよう」とやることにした。

まずは「影忍者団結成式」なるものがあるというのにわか忍者はその日に「ジャコウ猫のアコ」になるための衣装作りにとりかかつた。「おかあさん忍者になるん?」と次男はあれこれ世話をやいてくれるが、長男は「忍者とかなりきるんね?」と少しばかにした様子で「僕は参加しない」と、他人事のような顔をしている。「ようしみておいで!飛び切りかっこいい忍者になつてやる!」といきまいてやつた。

それから3ヶ月。七人衆として夜遅くまで会議があつたり、影忍者との話し合い、修行の実演、小道具作りなど、結構大変だったが、「あの修行はどうだ、この修行に名前をつけるとしたら・・・」などと家であれこれ考えてみると、長男がスースとよつて来て「・・・の術とか言う名前もいいよ」とカッコイイ名前を教えてくれる。おまけに詳しい説明付きだった。やはり若いだけに発想がおもしろいし、忍者祭りにはまったくのつてくれていないと思っていたので嬉しかつた。

やがて、修行も決まり、小道具もドンドン出来上がつて着々と準備が整つていつた。我が家も次男の衣装が出

来上がつた。次男は大喜びでもう忍者になりきつている。長男は、「かつこいいやん!」と弟の忍者姿を見ていたが、とうとう「おかあさん、僕カメラがかりになつてもいいバイ」と言いだした。おまけに主人もビデオ係になろうと言つてくれた。初め私と次男だけの参加予定であつたものが、そういう形で家族全員が参加できるようになり、とても嬉しかつた。

そしてとうとう本番!

忍者体操の出番の前になると、やはり緊張する。初めの意気込みはどこへやらで、とにかく自分の出番をきちんとこなさなくちやとそれだけだった。それでも、はでな衣装で走り回つていると、他人が振り返つても平氣になり、だんだん心地良くなつてくるのは不思議だつた。私が爽快な気分でうろうろしていた頃、忍者団同行カメラマンの長男はいつのまにかカメラそっちのけで、忍者団の一員にはまつてしまい、あちこちの修行と一緒にこなして走り回つていた。その証拠が主人のカメラにしつかり納まつてゐる。

こうやつて、家族全體が忍者祭りにドップリつかつて飯塚の街を舞台に遊びころげた一日となつた。本番までの青年連や子供連との触れ合い、当日の街であつたさまざまな出来事など、私にとって一生忘れられないおもいでとして残るだらう。

柴 茅野

最初、忍者修行はいやだなあ、何とかなく恥ずかしいと思いつつ参加しました。参加してみると何と、その気になるるものですね。子どもの頃に戻つたように身も軽くなり心も弾んでいました。(そんな自分がおかしかつたです。)



その一方で子ども達は集団で関わって遊ぶ経験の少ないまま育ち、楽しく遊ぶ場所として「自分のへや」(コンピューターゲーム)や企業の儲け優先のテーマパークをあげ、子ども時代を子どもとして楽しめていないと感じている子どもも多くいます。

そこで今、子どもと子育て中のおかあさんに優しい街作りの中心として、商店街の中に、「子どもが集い、学び、親が集い、安らぎ、情報交換できる場所」を、公益的に作り出すことは、「そこで子育てしたい街」作りの中心として、行政、商店街、市民が一体になって取り組むべきことであると提言しようとしています。趣意書の骨子は下記の通りです。

「未来からの使者である子ども達を育み、そこで子育てしたい街づくりのために」

1・商店街の中心地区に「子育てステーション・キッズ・ハウス」を作る

2・「キッズ・ハウス」は親同士・子ども同士のコミュニケーションスペースとして誰でも立ち寄れるところとする

3・「キッズ・ハウス」には託児所を設け 商店街で買い物をする人の子どもの短時間託児をしおかあさんに

飯塚市内の商店街をつかつての「忍者祭り」は、人と関わることの苦手な今の子どもが、商店や街行く買い物客と積極的に関わりながら「忍者修行」をすることで、街を「親の買い物について行くよそよそしい街」から「自分が遊んだ体験のある故郷」へと変える試みでした。その取組を通して私たちは街の中心にある商店街における人の関わりの豊かさが、その街が「人が住み着く街になるかどうか」をはかる一つの指標となると感じたのです。

現在、街の中心商店街より郊外の大きなスーパーやディスカウントストアに車で乗り付けて買い物をする客が増え、店と客の人間関係のない商売は結局、商品に対しても責任のない金銭第一の構造を作り出し、さらには、人々の生活を地域に根付かないその場限りのものにして行く危険性さえあります。地域の人間関係が薄れるに連れ、子育て不安に陥っている若いおかあさんも多く、育児書や育児に関する書物の氾濫はセオリー通りにはならない育児に、かえつて母親を悩ませる結果となっています。



優しい「子育ての街」として 集客効果のある場を提供する

4・「キッズ・ハウス」には遊びや学びのスペースを中心 に子育ての悩みに応じられるよう 小児科・産婦人科 診療室 子育てカウンセリング室を設ける

5・「キッズ・ハウスは、子ども関連商品(衣類・おもちゃ・絵本図書・雑貨・離乳食メニュー・レストランなど)のテナントを募り 良質な子育て用品がなんでもそろう場所とする

6・「キッズ・ハウス」は行政や民間企業に属さず、社会的に必要な公益活動をする非営利団体として自立運営され、専門スタッフに支払う人件費以外の利益は統べて公益に使われるようとする

子育て中の親にとってその街で子育てできることで安心できる街。そしてそこで育った子どもが再びそこで子育てしたいと思う街。・・・今子育て中の私たちが、20年後子育てるわが子にどんな街を作り出しておいてやれるのだろうか・そんな思いで行政・企業・商店連合会などと話しあいを始めようとしているところです。

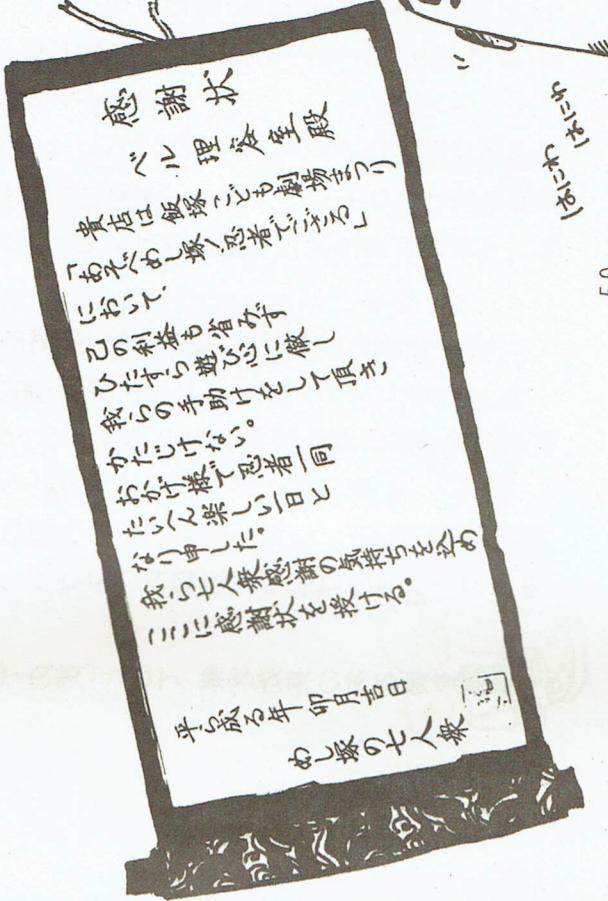
商店街の声

声

たまおき
うまく受け答えでき
なくて、悪かつた。
またやる時は、協力
します。
●●●●●●●●
はたや楽器店
おとりの仮装を見て
だけでも楽しかつた
●●●●●●●●
元野木書店
きつそうやつた。
ご苦労様でした。
●●●●●●●●
元ブティック・アン
元気がよくて、楽しそ
うだつた。
こつちも楽しかつた。
またやつてほしい。
●●●●●●●●
ベルパール
こんなことがたびた
ね。商店街の若だんな
衆にも参加してもらつ
たら?
●●●●●●●●
ますや
お母さんが疲れて、座
りこんでいた。

クラヤ
お母さんは元気がよ
かつたが、子どもはも
じもじしていた。「合
い言葉は?」と言うま
で言わなかつた。
むこうの店に行つた
子の方が元気よかつた
●●●●●●●●
フジイ進物店
今度また協力させてく
ださい。
●●●●●●●●
江崎はきもの店
来年も来てください。
こつちも楽しかつた。
●●●●●●●●
あかさかや
写真をとつてあげた。
とても楽しそうだつた
ので、大変だらうがこ
れからもしたらよい。
●●●●●●●●
みのや
今後も協力します。
夜市なども手伝つて
ください。
店も客も、仮装の人
を楽しんだ。

八番館
ストリートが全部わ
かれ方がわかるので、流
れも教えてほしい。流
見ただけで笑つてしま
つた。



59

報告集編集

山田真理子
貝原小百合
中村るり
高取慶介
武藤法子
莊田朋子
表紙・カット
貝原小百合

ビデオ編集

奥田聖一
吉柳佳代子
山田真理子
R.I.K.I.(太宰府子ども劇場)



発行	飯塚こども劇場
	飯塚市菰田西3丁目1-1
	TEL 0948-28-7319
印刷	石崎印刷